2013

あなたのところに、一枚の「赤紙」が舞い込みました

八月九日（日）午前十時『緑社会教育センター』へ出頭せよ！

「赤紙」は実際は、もっとさり気ない調子で、次の様なものでした

臨時召集令状

愛知縣名古屋市緑区鳴海町字本町五拾四番地

第一補充兵陸軍歩兵　緑　太郎

右臨時召集ヲ令セラル依テ左記日時到着地ニ参着シ

此ノ令状ヲ以テ当該召集事務所ニ届出ヅベシ

到着日時	平成四年八月九日午前拾時
到着地	名古屋市緑社会教育センター
召集部隊	戦争体験を語り継ぐ集い実行委員会

緑聯隊指令部

印

緑社会教育センター「第２．３集会室」

◆ビデオ「はだしのゲン」（アニメ）　◆当時を偲ぶ、思い出の「品」等の展示

◆当時の体験を語り継ぐ「懇談会」　等々

（お昼には、当時を偲ぶ「イモガユ」の試食会も予定しています）

多数の方々の参加をお待ちしています。どうぞ、お誘い合わせの上、お出かけください

※ 主催（お問合先）は、緑社会教育センター

☎ 621－9121

表紙＝第四回（平成四年）戦争体験を語り継ぐ集いで発行した記録集初版より採用しました。

限りなく初版集に近く復刻編集に努めました

第25回戦争体験を語り継ぐ集い 戦時体験記録集《第20集》

ところ　緑生涯学習センター

月・日　平成25年7月27日

戦争体験を語り継ぐ集い実行委員会

★☆★発刊の言葉★☆★

★明治からの【富国強兵】＆【帝国主義】敗れ【平和】になって６８年
☆一晩で１０万人焼死東京空襲・２６分間に８１万４千トンの豊川空襲
★地球で最初の核被爆国日本、三発目は何処にも落とすなと叫び６８年
☆亜細亜太平洋戦争の犠牲総数２千３百１６万人内日本人３百１０万人
★戦争の記憶しかない【昭和】から【平静】を願望し【平成】へ２５年
☆【日本の宝】【憲法９条】を【世界の宝】へ【戦争体験】始め２５年
★戦争体験【語り】から【語り継ぎ者】へ【継続は宝】コツコツ２５年
☆天皇の命令で集められた最後の皇軍１９歳徴集兵生きておれば８８歳
★核未知が多い手を出すなの叫び無視し３・１１故郷核汚染居住デキズ

今年　戦争体験を語り継ぐ集い　１／４世紀の節目　初版記録集

初心に戻り

復刻

発刊しました

目　次

レジュメ・・・・軍馬と一緒に死の皇軍・・　語部　伊藤　芳雄　１頁
レジュメ　語部　小島　久志　２頁
レジュメ・・・・名古屋の空襲・・・・・・・　語部　瀬間都美子　３頁
棄民のあしあと・・・・・・・・・・・・・・・・　夏梅　誠一　４頁
復刻版発刊にあたり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１頁
復　刻　版　頁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２頁

軍馬と一緒に死の行軍

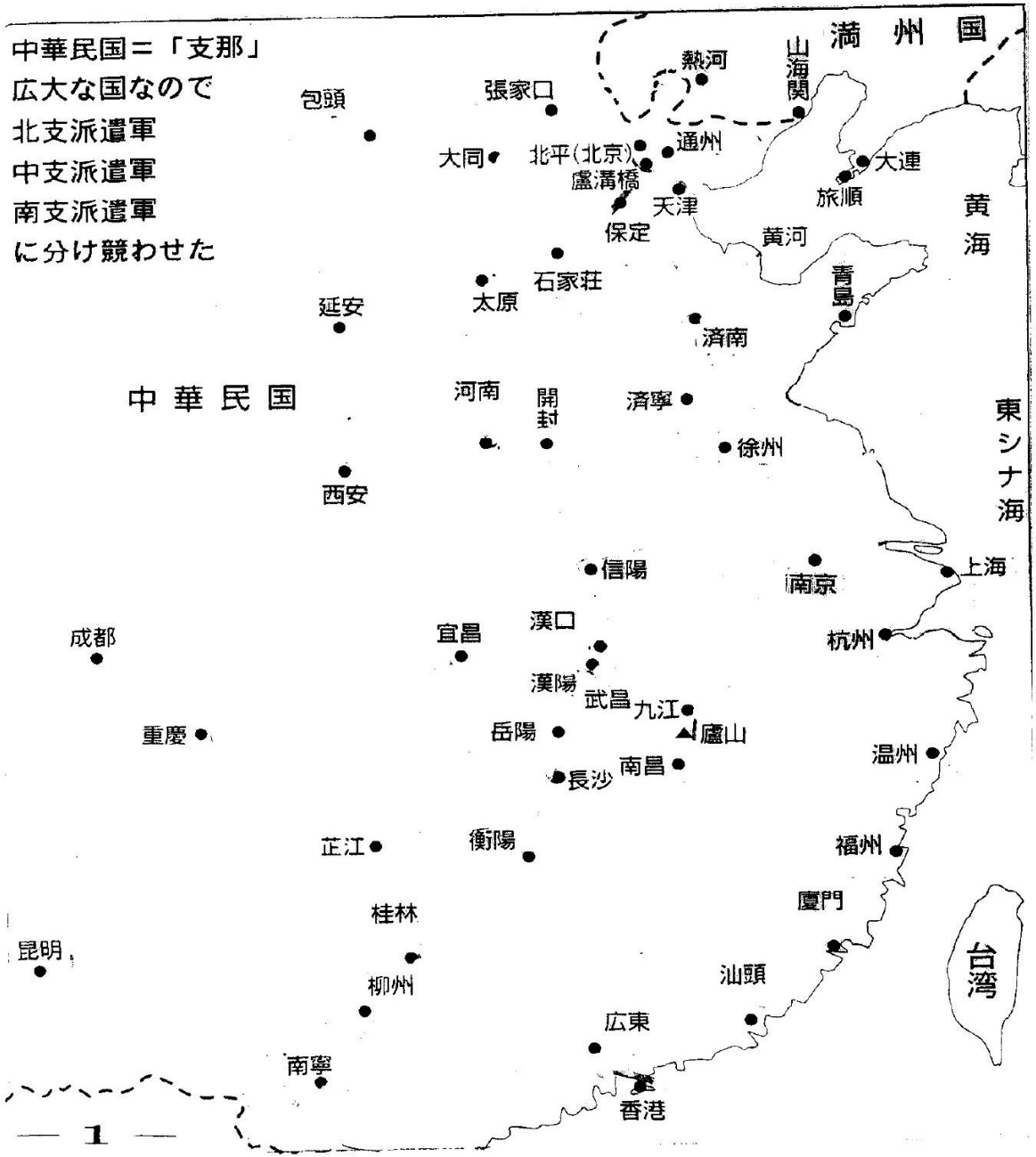
語部　伊藤　芳雄

私は、ほんのわずかでしたが、中国で一兵士として戦場の姿を見、また体験をしてきました。敵と向き合う最前線の戦場（いくさば）は生き地獄でした。私の戦友もたくさん亡くなりました。

南京（なんきん）郊外に駐屯していた私達の部隊も、昭和２０年６月以降「日本本土決戦」の準備をしました。演習も訓練も対米作戦にり、今思うと、本土決戦となり、連合軍が日本本土に上陸し攻防戦が展開されてたら、沖縄と同じと思うと恐ろしくなります。

悪魔の兵器「原子爆弾」が広島と長崎に投下され、降伏を決意し敗戦。そして今の平和な時代になりました。

私の体験した、あの悲惨な戦争を二度としてはいけません。



追悼＝故 中沢啓治さん
”はだしのゲン“ 原画展とマンガ展

語部　小島 久志

コミック版「はだしのゲン」全１０巻　汐文社　刊行
「はだしのゲン」は作者　故中沢啓治（なかざわけいじ・１０３８～２０１２）ご自身の原爆体験を基にした長編マンガです。

作品の中にもある…原爆症で亡くなった母が火葬にされた際、骨が残らなかった…エピソードが中沢啓治に、広島の原爆をテーマにした漫画を描かせる発端になりました。

この物語は、広島市舟入本町＝現在の広島市中区に住む、神崎国民学校（小学校）２年生の主人公ゲン（中岡元）が１９４５（昭２０）年８月６日に投下された一発の原爆で、父＝大吉（だいきち）姉＝英子（えいこ）弟＝進次（しんじ）の３人を亡くしながらも、たくましく生き抜く《ゲン》と、その家族を描いております。

その日の朝８時１５分、米軍の最新鋭爆撃機「Ｂ２９」エノラ・ゲイ号から投下された原子爆弾の衝撃で、父・姉・弟の３人が、崩壊した家の下敷きに、閃光を浴びて『生きたまま焼け死に』ました。この地獄の修羅場を見て、母＝君江（きみえ）は、ショックで産気づき、路上で妹の友子（ともこ）を出産しました。

「はだしのゲン」は、子どもたちや、保護者、教育関係者から広く支持され、英・米・仏・独・スペイン更に、韓国・中国・インドネシアでも親しまれ、カタログ語、エスペラント語などにも翻訳されています。

中沢啓治は２００９（平２１）年、白内症に罹り漫画家を引退、２０１０（平２２）年肺癌が見つかり、翌年、原画や単行本１万点余りを広島市に寄贈して昨年１２月に７３歳で死亡しました。

広島に原爆が投下されて以来、６８年、「はだしのゲン」が「週刊　少年ジャンプ」への連載が始まってから４０年になります。

戦争と平和資料館「ピースあいち」で８月１日（木）～８月３１日（土）１１時から１６時迄（月曜休館）で、追悼　中沢啓治「絵本はだしのゲン原画とマンガ展＝麦のように生きるんじゃー」を開催します。そして期間中、８月３日（土）１３時３０分～１６時には、“はだしのゲン映画とトークイベント”
中沢啓治　追悼　『みんなで話そう「はだしのゲン」－中沢ミサヨさかを囲んで』も併催します。

参考文献　①『はだしのゲンわたしの遺書』　中沢啓治著。
朝日学生新聞社　２０１２年１２月２０日発行
②『「はだしのゲン」自伝』　中沢啓治著。
（株）教育史料出版会１９９４年７月１５日発行
③『はだしのゲンはヒロシマをわすれない』　中沢啓治著
岩波ブックレット　Ｎｏ７３５
④『はだしのゲンはピカドンを忘れない』　中沢啓治著
岩波ブックレット　Ｎｏ７

空襲で我が家全焼ス

語部　瀬間都美子

1　名古屋夜間空襲の始まり

○１９４５（昭２０）年３月１１日　マリアナ諸島出発
○攻撃開始３月１２日　午前１時７分
○攻撃終了　３時１７分

2　生いたち

○　１９４１（昭１６）年４月
名古屋市上宿（かみしゅく）国民学校入学
１２月８日　太平洋戦争突入

4　夜間空襲始まり　家屋は全焼　姉　焼死

5　露天掘り　防空壕　で朝まで　寒さに震えていた
自宅に落ちたのは　焼夷弾
市の中心部には　３６本入り焼夷弾
空中で破裂してバラバラと広範囲に広がり落ちてくる

6　現在の　北名古屋市　に疎開生活
転校生

Ⅲ　１９４５（昭２０）８月敗戦
戦争が終わったのに　帰る家もないので
１９４９（昭２４）年８月　名古屋へ戻る

まとめ
市民生活が根底から　こわされた
多くの　命　を失った

夏梅　誠一氏寄稿　棄民のあしあと

編　集

※いままでのあらすじ

戦争に負けると満州在留の軍人・邦人１８０万日本人をソ連の指令下に移し、満州に土着帰化（国籍離脱＝棄民）扱いを計画した文書が、モスクワ公文書館に保存されている。

戦後復興労働力にソ連は日本の軍人軍属６４万人と男狩りした一般男子合わせ７０～８０万人連行し、病気や労働災害で働けなくなった者を黒河（こっか）へ流れるように追放した。黒河の人民解放軍は、元日本の陸軍病院、旅館等に収容したが直ぐ満杯になり、寺院、学校、倉庫等にも収容しきれなくなり、黒河より３５０キロ南の北安（ぺいあん）へ移し対応した。１梯団２０００人前後で５～６梯団までの証言がある。ソ連は満州から引き上げる時、北安～黒河間の線路と枕木を捕虜に外させ貨車に積みソ連へ運び込んだので徒歩。

夏梅氏は昭和２１年１月発病しソ連から黒河へ追放され、４月下旬黒河の黒龍江川原から、歩けない病人は馬車。他は４人でチームを組み一週間分の粟、岩塩、マッチを受取り、煮炊き燃料は自分達で拾うなど。見物の中国人達が「病人が夜は冷えるのに、山や野原に寝ながら３５０キロも歩けない、みんな死ぬ」と、話し合ってるのを聞きながら出発した。

チームのＫは、交戦なく無傷でソ連へ。北西シベリアの森林伐採で３カ月で半数死亡。半数も発病し僅か３カ月で全滅した第７国境守備隊の生存者。

チームのＦは農民。冷害に怯える地主の農地を見限り国策に沿い、満州に開拓村建設の使命に燃えた小作農者。収穫まで落伍者を出さず開墾に励み、模範開拓村建設と誓い合ったが、貰った農地は中国人祖先伝来の美田を横取りした満州屈指の肥沃な穀倉農地。最初は中国人に「すまない」気持ちだったが、周囲の日本人同様、いつしか中国人蔑視に自分も転落したことを恥とする。男狩りでソ連へ連行された一人。発病し黒河へ追放。

チームのＳは、上官風を吹かせない無口な人物。いつも次の行動には最初に黙って腰を上げ、的確な判断で行動し３人に頼られているらしい男。

夏梅氏はこの３人で３５０キロを互いに病体を理解し合い、無理せず２週間以上かけゆつくり歩き、北安に４人揃って辿り着いた唯一のチーム。北安に着く前夜、解放軍兵士同士の会話は、１５００人以上で出発し、計画通り一週間で着いたのは馬車に乗せられた病人だけ。２日目から行路死が現れ死者は５００人以上１／３～１／４が死に、今現在行列の長さは３０キロ以上だと報告しているのを聞く。罵しり怒鳴りながら、早く早くと歩くチームから脱落していた。夏梅氏らは「死の旅」で結ばれた絆で４人揃って日本へと誓い合う。

棄民のあしあと

夏梅　誠一

北安に着いた私達４人は収容所長に働く意志があるかと問われ、４人一緒の仕事をしたいと申し出た。黒河から送り込んでくる日本人病人集団に北安は対応できず、働く意志のある者を働く現場へ宿泊させ、収容者を一人でも多く受け入れたいと話し、南満州は国民党軍の支配で「お荷物の病人集団」を南へ追放は人道上許されないと。私達は北安軍政学校の食堂で雑役として働くことになった。この建物は日本の全寮制旧制中学の建物なので校舎・講堂・宿舎・炊事・厨房等各所に日本が存在し何故がホッとした。事務室の扉を押してカウンターの前に並んだ私達を、人事担当者は「前任者がやめたので、今直ぐ働いてもらいたい」と言い、２０歳位の男に私達の仕事を教えるよう指示した。男は私達を宿舎棟の空室へ案内し１００％和室の６畳間を君達の部屋だ、荷物を置いて付いてこいと。軍隊に入ってから「死ぬ時は畳の上」と願望し、シベリアから黒河の収容所と回され今「偶然」にも畳での起居が叶えられ、毛の無い繊維だけの毛布、飯盒、マイ箸一膳の全荷物を部屋の真中に置いた。

男に付いて目の前の大きな建物へ向かった。そこは天井が高く、床は板張りで講堂らしかった。部屋には幅９０センチ、長さ１８０センチ位のテーブルが１０脚ほど３列に並び、男は「学生の食堂で生徒たちは立ったまま食事をする」と教え、厨房へ案内された。厨房には直径１メートルもある平鍋が黒光りした前に、白髪頭の爺さんが木箱に腰を下ろしていた。男は「今日から働く日本人だと」紹介したが、爺さんはブスッとして見向きもしなかった。窓際の調理台には大木を輪切りにした俎板と、重そうな中華包丁が置いてあり、その傍らには刻んだばかりの白菜を入れた籠がいくつも並び積まれ、棚の上にはブリキ製の鉢が積み重ねられ、油光りしていた。男は３０メートルほど離れたスレート屋根を指し炊事場だと教え、屋根の隙間からもうもうと湯気が上がり、昼食を炊いているのか渋甘い高粱の炊ける匂いが漂っていた。

炊事場の出入り口近くの棚の上には行儀よく石油缶が並び、その下に１０本ほどの天秤棒が立ててあり、男はここでも炊事の責任者に私達を紹介し「これから君達は毎朝起床ラッパで起き、始めに石油缶に水を入れ厨房へ運ぶ。次に、飯と白湯を運ぶ。その後厨房に戻り、中華味噌と生葱かニンニクをテーブルに配る。学生の朝食が終わってから君達も食事を済ませ、片付けと掃除をする繰返し」だ。判らないことは事務室にいるから聞きにくるようにと戻っていった。私達は今朝から休みなしで仕事の段取りを詰め込まれ疲れているので、炊事場の前の石段に腰をおろし、仕事のこと、これからのことを話し合った。

「まだ昼の準備には早いが水汲みから始めるか」と、今迄のようにＳが最初

に腰をあげた。天秤棒で物を担いだことのないKと私はFから直接教わった。Fは棚から石油缶2個を取り、8分目位水を入れ表に出ると、斜め右前と斜め左後ろに缶を置き、右肩に担いだ天秤棒を斜めに構え石油缶に取り付けられている針金の取手を天秤に引っかけると、前後の針金を両手で握りゆつくりと腰を伸ばし「いいか、ここで肩を前から後ろへ回すようにして一歩前へ足を踏み出すのだ」と、すたすた歩き「やってみろ」。Kと私が石油缶に水を入れるとSが「最初は半分か6分位にしなさい」何故と聞くとFが「歩くと判る」と軽蔑するように笑い合っている。私達は言われた通り水を半分したがピチャピチャ缶の中で水が跳ね上がり、歩くほどにピチャピチャが威勢よくなり水が外に飛び出し、道も厨房内もビタビタになり、厨房の甕に辿り着いた頃水は少量になっている。水の量と私の顔を見比べた爺さんの呆れ顔を私はマトモに見られなかった。

正午を知らせるラッパが鳴り響き、黄緑色の軍服に「東北人民解放軍」の胸章をつけた20歳前後の学生達が食器袋を提げぞくぞく食堂へ入ってきた。昼のお菜は薄い豚肉が入った白菜の油炒めと醤油味の辛い漬物に高粱飯だった。学生達は立食いで食事をすますとサッサッと出ていく、学生の食事が終わり私達も学生と同じモノを食い、後片づけを済ませ自分達の部屋へ戻るや、欲得なく何年振りかの畳に転がり、深い眠りに落ちいった。

北安にも夏が来た。働きも一カ月が過ぎ、Fに習った水汲みも今ではソロソロであるが石油缶に8分目位は運べるようになり、FやSのお荷物という負い目から抜け出した。仕事に慣れゆとりが出来ると、野草のゲンノショウコを摘み乾燥させお茶代りにしたり、衣服や毛布を煮沸消毒し「虱」退治したり、バリカンを借り頭をサッパリさせるなど、シベリアから引き摺っている俘虜のむさくるしさから少しづつ人間界へ戻った。その頃になると男は「もう解放軍のハルピン奪還は時間の問題」とか、私達に戦況の優勢を話すのを楽しみにしていた。私達をうっとしそうに見ていた爺さんの顔付きも柔和になってきた。

そんなある日、いつものように食堂入口の石段に腰を下し雑談中、軍歌のような歌声が近づき歌声隊は校門から姿を見せ校庭へ。小銃に背嚢を背負った一個小隊位の隊列は3人一組で銃を組み、背嚢を降ろし背中合わせに並べ小休止。銃は長くて重そうだし、背嚢には直径50センチはある平鍋やバケツ、シャモジがくくりつけてある。Fを除く3人は日本の軍隊と同じ動作を見ながら「お粗末な装備」に驚き、これでアメリカの武器を持っている国民党軍に勝てるかと人事ながら思い「もう直ぐハルピンを奪還する」と私達に吹聴した事務男の言葉を疑った。バケツを提げた兵2人が「飲み水をいただけませんか」と私達の処へ来たので、Fは厨房へ案内した。2人は旨そうに水を飲み乍らお喋り

を楽しんでいる。これを見てまた3人は不安になった。日本軍は初年兵が水を汲みにきて先ず小隊長から班長の順に飲む指揮統一の軍律なので、指揮面からも軍律のない不安が先行していた。小休止を終えたのか装備を身に付けあの「軍歌」を合唱しながら遠のいて行った。

後年私は、中国医大でチームの一員に抜擢され働くことに、医大は会議や学習が開かれる度に「あの時の軍歌」を医員と声を合せて歌わされ覚えたので、歌詞をご披露する。

歌の題は♪二大規律八項注意♪

♭革命軍人は覚えよう三大規律・八項注意
第一すべての行動は指揮に従い勝利の道
第二大衆のものは針一本取ってはならないぞ
第三すべての捕獲物は公のものとする
三大規律は覚えたぞ八項注意も忘れるな
第一言葉は穏やかに礼儀正しく驕らずに
第二売買は公正に買うとき売るとき公正に
第三借りたものは必ず返せ失くさずに
第四物を壊したらちゃんと弁償するように
第五人を殴るな罵るな軍閥のようなまねするな
第六農地を大切に行軍のときは気をつけろ
第七女性をからかうな尊敬する母になる
第八捕虜の虐待は決してゆるさない
規律を守って自覚して互いに監視し違反するな
革命規律を覚えて人民軍隊は人民を愛す
♭祖国を守り永遠に前進全国人民から喜ばれる

この歌詞は、中国人民解放軍を「土・農・紅軍」と呼んでいた1932年、建軍の掟を歌曲としたと中国医大へ来てから教えられた。一見当たり前のことを唱っているこの歌詞だが、あの当時この国の農民や労働者の多くが、母国の文字さえ習えなかった国情を開放し、新しい国づくりを目指す軍隊であることをこの歌声と共に知らせ、実践を広めていったところに「勝利のカギ」があっのかと思う。

軍政学校で働き1カ月あまり、最初の賃金を受け取った。ソ連の軍票3枚と小型でヨレヨレ粗悪紙の東北人民券10数枚を手にした私達は、この賃金が労働と物価に適切かどうかは判らないし気にもしなかった。それはシベリヤや黒河の収容所で家畜同様の雑穀粥をすすっていた頃から、今はこの学校の生徒達

と同じお菜とご飯を食べ、和室6畳に寝起きはている安堵感がそうさせていたのかも知れなかった。それでも俘虜2年目の越冬準備だけは忘れていなかった。学校前の大通りにショウトル市（ドロボウ市）が立つ日は冬物の衣服を求めに行った。孫呉のドロボウ市には日本軍の軍服や地下足袋、スコップ類が多かったが、ここはオール日本物ばかりで新品の日本軍軍服から、日本軍の防寒衣服、着物満杯の和服タンスから背広、国民服、額縁に入った絵画、楽器類からポータブル蓄音器と軍歌から演歌までのレコード版。同行の3人は「これらは全部日本が描いた『王道楽土』の夢の跡」かとつぶやいた。

収容所長の呼び出しでKと私は2カ月振に収容所へ行った。所長の人柄と日本人の勤労意欲で軽作業者の申出が増え、収容所はガラガラになったと聞いていたが、行ってビックリ俘虜達で溢れ、腰をおろし膝頭を抱えている者、焦点の定まらない目でぼんやりの者、少し元気な者はシャツを広げ虱退治。Kが2カ月前の俺等と同じだと一言。彼らの話をまとめると、私達が黒河を発つ頃、シベリアで過酷な冬を耐え抜き訪れた春の季節に備えるため、俘虜の身体検査選別で労働不適格と選別された者は黒河の対岸ブラゴエに集められ、黒河へ送還。間なしで北安まで歩き通してきたというのだ。

所長に呼び出された数は30～40人、3人掛けの長椅子に腰掛け互いに仕事や食事、給料などの情報交換の姿からは、2カ月前のヨレヨレ姿とは誰も気付かないと思い、働くことは人格まで高揚させる魔術があると実感した。所長は、皆さんが元気になって働いているので嬉しいと前置きし、一カ月ほど先の計画だが、皆さんが働きながら病気を克服したように、後から来た人達も働きつつ元気になって貰いたいと考えている。今の仕事を後輩に譲り仕事を変えてもよい人は10日以内に申し出てほしい。出頭した俘虜達は俘虜扱いでなく人として対等に相談してくる所長に感謝の言葉で謝意を表わし、私達4人一緒に次の仕事に付けるなら転職？し後輩に譲ると申し出て、同意する俘虜達が多かった。事務男は、この移動は君達の帰国とは関係ない、ここで働いておれば越冬の衣服や帰国の情報も必ずくるから残れと言ってくれた。出発の日、私達は炊事の連中や厨房の白髪頭の爺さんや、かけつけてきた事務男などと「再見」と手を握り合い、彼らは校門まで見送ってくれた。僅か2カ月の私達に。

私達は同行の兵隊から食料の現物支給を受け、何年振りかで隊列を組み北安駅へ向かった。ホームには先着の俘虜達がうずくまっている。その隣に3、40人位のゴマシオ頭のオッサンや爺さんに混じり20人位の軍服姿の女としか見えない若者だ。この女性達も私等同様「北辺鎮護の防人（さきもり）」と歌われ「陣地死守」を命じられた私達と同じように「王道楽土」の夢破れた犠牲者達で親や夫、子どもと死別、生き別れここへ辿り着いた人達だと思った。開

拓村で男狩りされたFは、生き別れの妻子の消息を知りたいと、一般邦人の処へ行こうとしたが接触は許されなかった。やがて勇ましい蒸気を吐きながら満鉄の機関車が10両ほどの客車を従え入ってきた。シベリアでは馬糧の臭いがしみ込んだ家畜貨車だったので俘虜達は「客車だ！」と歓声があがり、一般邦人等を不思議がらせたようだ。

汽車は最初動いては止まり、給水塔で給水を受けたり引込線に入ったりして順序が逆たと笑いあっているうちに、大平原に入り赤い夕日に照らされやがて漆黒の闇になり、遠方に幾つもの野火を望みながらひたすら疾走「ハルピンを通過したぞ」の声に私達4人は驚いた。軍政学校の事務男が「解放軍は近くハルピンを奪還する」と誇らしげに私達に語り、鍋やシャモジを背嚢に縛り付け武器は旧式銃の解放軍は、アメリカ製武器を使っている国民党軍とは対等には戦えないと思っていたのに、人民解放軍は確実に南へ南へと進軍し、この汽車も二日二晩南へ向かっている。夜が明け遠方の波打つ丘陵に、白樺や柳（くぬぎ）などが蘇生する雑木林を見た私は、ソ満国境の小興安嶺山脈の延長であると思い行先は「牡丹江（ぼたんこう）かそれとも佳木斯（じゃむす）それとも図們（ともん）か」と詮索し、俘虜2度目の越冬は穏やかな地方と念じた。

ギィギィッと車輪を軋ませホームでなく草原に止まった。線路の前方は車止めの枕木が積み上げられ終着駅だと判った。解放軍兵士は「興山（しんさん）と言う炭坑街だ。牡丹江を経由し佳木斯から国境沿を北上する支線の終着駅だ」と説明した。北安駅に私達よりも先に着いていた俘虜と、爺さんと女性達とは別にされ、兵士から「7～8キロ東の東山（とんさん）まで歩いて行く」と。雑木林を過ぎると段々畑が現れ民家が点々と存在し、やがてボタ山が見え「間違いなく地底何百メートル恐怖の炭坑労働」を想像した。

暫く歩くと深さ4～50メートルもありそうな、人間が掘り下げた広い地底で、黒光りする炭層に群がるように何台もトロッコが並べられ、その周囲に大勢が鶴嘴を振るい石炭を掘る者、トロッコに積む者が小さく見えた。私は（これが露天掘りか）と、自然を一変させた人間の働きに目を見張り圧倒された。仕事を終えた数人の炭塵で煤けた顔の連中が、皆両手を前に組み大きな石炭を抱えてやってきた。彼らは仲間になる私達に笑顔で「今天好（ちんてんはお）尓好（にいはお）と挨拶され、俘虜になった日本鬼子（りーべんくいず）に対し好意的な態度に感謝し、これからも今迄のように感謝し甘えることができると安心した。収容所の所長からこの炭坑労働者も全て中国人は『大人（たいじん）』だった。仕事が終わると大きさの大小に関係なく、一人石炭一つ燃料に持ち帰る恩典があると教えてくれた。炭塵で汚れた屈強な男が真っ白い歯と笑顔で、挨拶してれたお人好さに私の炭坑恐怖心は少し除かれたようだ。

宿舎らしい建物に着いた。間口6メートルほどの大きなアンペラ（高粱殻を六ツ割くらいにして筵のように編んだ敷物）小屋がいくつも並び、アンペラ小屋の向こうにカマボコ屋根の石と土で固めた民家が建ち並んでいる。誰かが皆を代表するかのように「こんな掘立小屋に住めと言うのか？」と。兵士が「今後のことは北安の所長が来てから指示されるが、寝起きの場所を決めておきたい」と、名前を読み上げ50人単位でアンペラ小屋を割当てた。小屋の奥行きは25メートルほど、室内は2メートル巾ほどの通路が扉まであり、左右に腰がおろせる高さに2枚重ねのアンペラが敷き詰められて、5～6メートルおきに障子紙を貼った格子窓が並び、名前を呼ばれた順に床に腰を下ろした。その位置がこれから個人の『城』になる生活空間であった。

50人の定位置が決まると兵士は「座席順10人に一人の組長を選ひ、組長達で寮長一人を決めてもらいたい」私達は誰を組長に選ぼうかと話し合ったいるとKが「私が組長やをやってもいいよ」と名乗り、組長達が選んだ寮長は年配者のAさんだった。そして選ばれた5人の寮長と中国炭坑側2人がこれからの作業について話し合うと言うのだと。……次号へ……ちょうどこの頃…

その頃 黒河で大事件が発生した

橋詰 記

黒河には黒河周辺で敗戦になり取り残された老若男女の日本人と、シベリアで発病使えない日本人を、ソ連は一方的に黒河へ置き去り追放し、日本人収容所は数カ所存在していた。その一つ南嵩収容所は日本人婦女子とシベリア追放者で千五～六百人収容されていた。収容所長は「食べ物の平等公平」の証明として、解放軍と同じ食事を解放軍と同じ場所で解放軍と一緒に食べることを奨励したので、解放軍と日本人の間に和やかな人間関係が生まれていた。

そんな収容所で大事件が発生した

昭和21（1946）年6月21日午前0時

南嵩収容所の日本人が

解放軍兵士8人を撲殺し脱走したのだ

その一人　井上龍助（北海道）橋詰と同じ第六国境守備隊員の手記です。

密かに話し合い決行は6月21日零時と決まっているが、時間が判らず不安だ。目は冴え固唾を飲み待っていた。突然、凄まじい怒号が起り、絶叫、グワー、うんん、やーっーと、叫びを合図に、決められた方向へ走った。他の人のことなど考えている余裕はない。躓き転び、胸はドッキドッキ、口は火傷のようになり水が欲しかった。暗い中で集まった人だけで歩き出した。前方で野犬化した軍用犬が吠えた。「こいつ！」と言う叫びと一緒に「キャン」と一声あげ静かになり叩き殺された。凄い殺気に包まれ、また歩き出した。以下略…。

限りなく初版（平成四年）発刊復刻に編集しました

戦争体験を語り継ぐ集いは平成元年に始めました
戦時体験記録集は一回（平成元年）二回（平成二年）三回（平成三年）と五回（平成五年）は未発行。
本復刻は平成四年度版、平成六年度から毎年発刊ス

臨時召集令状

愛知縣名古屋市緑区字本町五拾四番地
乙種補充兵　緑　太郎
右ノ者、臨時召集ヲ令セラルニ依ツテ左記日時ニ到着地ニ参着スヘシ
到着日時　平成弍拾五年七月弍拾七日拾時
到着地　名古屋市緑生涯学習センター
召集部隊　戦争体験を語り継ぐ集い実行委員会

召集令状の用紙は赤紙なので、国民は『赤紙』と呼び密かに怖れていた。郵送でなく市町村の兵事係が直接『○○さんおめでとうございます』の挨拶で家族に手渡した。出頭日は待った無し殆ど三日から五日以内非常に短く、葬儀の準備だけ済まして出頭した例もあり、事業主は引き継がせる準備も中途半端。家を離れている者を呼び寄せる努力も並大抵ではなかった。

兵事係は「召集令状」と一緒に『奉公袋』と大書した手拭い二つ折りサイズの布袋を置いていく。召集者は袋に「褌2～3枚・洗面具・爪切り・糸鋏・万年筆などを『天皇陛下の御為この身を粉骨砕身名誉の戦死を覚悟』で『奉公』する『袋』を持って」出頭する仕組みにセットされていた。

婚約者でなくても知人であれば「天皇陛下のため、国のため」と強引説得嘆願して即結婚、初夜を済ませ家系を絶やさぬ画策も多く、一夜だけの戦争未亡人が多く発生した。

甲種合格は「白用紙」を用い、甲種合格で兵役を済ませた帰郷者と、乙種合格以下の、兵役未経験を集めるのが【赤紙】制度であった。

第四回（平成四年度）
「戦争体験を語り継ぐ集い」
記録集初版

復刻版発行にあたって　十一頁

＝もくじ＝　十二頁

第Ⅰ部

一　はじめに　緑社会教育センター　十三頁

二　開催までの経過　十四頁

開　会

（1）「15年戦争について」　小出　裕　十五頁

（2）報告1「戦争への道」　花房　達夫　十六頁

（3）報告2「シベリア捕虜体験談」　橋詰　四郎　十七頁

（4）参加者からの発言　十八頁

三　感想文　十八頁

四　アンケートまとめ　二十一頁

五　むすび（反省と展望）　二十二頁

第Ⅱ部《資料編》

1　当日の案内表　二十三頁

2　年表に見る日本軍の派兵（侵略）　二十四頁

3　国定教科書＝国語＝年代大正　二十七頁

4　シベリア捕虜の頃　二十九頁

5　現中国東北の日本軍永久要塞　四十一頁

1　はじめに

緑社会教育センターでは、毎年八月の「敗戦記念日」に合わせて、「戦争体験を語り継ぐ集い」を開催してきました。

最近では、「語り継がれる」対象が、小中高生などの子どもだけでなく、その親の世代まで広がっているということで、裏返して言えば、「語る側」の年齢が高くなり、年々数が減ってきているということであり、「体験を語り続ける」ことの困難さを孕んだ大きな課題になっております。

過去三回の「集い」で、分かってきた緑区という地域は、「当時は名古屋市に隣接した田園地帯であり、狙われるほどの軍事施設はなかったようです。例外的には日本車両の工場がありましたが、そこでは連合軍の捕虜を働かせていたために爆撃を免れたという説もあり、特に激しい空襲を受けなくて済んだようです。」ということは、空襲による戦争被害者という側面だけを強調することもなく、『戦争』を多角的に取り合える基盤があるということです。

被災体験は勿論、銃後の生活の苦労、そして戦場体験、戦場へ送り出す教育をした立場、送り出された立場、同じ人が被害者としての立場と加害者としての立場を両方体験していたりで、より立体的に「戦争」を考え、トータルに「戦争」に迫る可能性がある反面、話が拡散しやすく、まとまりが難しいとも言えます。そこでテーマを絞った話し合いが効果的であると思われます。

今年は、住民の方が企画から運営までを担当する「実行委員会」方式で準備段階から進めましたが、その中で「戦争体制が固められていくプロセスに焦点を合わせること」が話し合わせられました。

第四回戦争体験を語り継ぐ集い
開催までの経過
本番日平成四年八月九日に向けて

①最初の集り

日　時　六月二十六日　十八時三十分～

場　所　緑社会教育センター　第一会議室

出席者　七名

議　題　出席者の戦争についての思い、考えを出し合い、企画についての大筋についての話し合いと今後のスケジュール

②二回目の集り

日　時　七月十三日　十時～

場　所　緑社会教育センター　第一会議室

出席者　六名

議　題　具体的な中身づくり。

焦点を、戦争にいたる過程、戦争体制はいかにつくられていったかとする。

③三回目の集り

日　時　七月二十九日　十時～

場　所　緑社会教育センター　第一和室

出席者　七名

議　題　本番日の進行、役割分担等。

④四回目の集り

日　時　八月八日　十時～

場　所　緑社会教育センター　第一和室

出席者　五名

議・題　具体的な準備。

3 第四回戦争体験を語り継ぐ集い

一　開会挨拶　司会・進行　大田　高輝さん

二　講師　小出　裕先生　「十五年戦争について」講演要旨

４７年前の戦争について、アジアの人と共に語り合える土壌が無い。「日本人は被害者としての戦争をしか語らない」というアジアの言葉を考えてみる必要がある。太平洋戦争の末期だけをみれば被害者としての側面しか見えないかも知れないが、アジアの人から見れば空襲や原爆投下は、アジア侵略の結果として見えると言うことであり、４７年前に敗戦で終わった《あの戦争》は１９３１年から始まった「十五年戦争」という視点をもつことで、初めてアジアの人達と話し合う共通基盤をもつことが可能になる。

戦争被害というとき、戦争を１５年間という長さで考えると同時に、地域的・空間的な広がりで考えることを提案したい。日本の広島・長崎を含む戦災被害や日本人戦没者だけに限らず、戦場となった（或いは日本が戦場にした）アジア全域に広げて考えてみることが必要である。日本人の犠牲者３１０万人、アジア全土で日本が殺した２千万人といわれる死者数。負傷者や強制連行に続く強制労働、従軍慰安婦、戦災孤児、被爆者や二次被爆その他肉体的、精神的な犠牲者は計り知れない。中でも中国人の犠牲者は１５年間で一千万人に達するといわれている。

空襲から敗戦までのプロセスをもっと考えてみる必要があるる。特に、若い人達はいろいろな局面で、「関係ない」といって済ましてしまおうとするが、国家権力に沿って引っ張りこんで関係をつけてくる。平常時から意識的に考えておかなければ、何時の間にか「戦争体制」に組み込まれていたということが再び繰り返されるのではなかろうか。

二　報告１　戦争への道（要旨）

話した人　不戦兵士の会　花房　達夫さん

実行委員会の話し合いの中で、戦争の非人間性をいうだけでなく、何故、私達は「ひもじい」「怖い」思いをしなければならなかったを、歴史の中で学ぶ必要があるということになり、年表の作成を思いたちました。詳しくは「年表」をみてください。

知っておかなくてはいけない歴史上の事実で、学校教育では取りあげられない事があまりにも多い。例えば、明治初年から敗戦までの７８年間で、４７年間は外国（台湾・朝鮮・シベリア・中国・東南アジア・太平洋諸国等アジア全土）へ出兵していた。

戦争体制がつくられる中で、軍人には「軍人勅諭」をもって皇軍思想を叩き込み、天皇の軍隊ですから、天皇を守る軍隊であり、国民を守る軍隊ではないのでした。沖縄戦で証明された通りです。

義務教育に「教育勅語」を取り入れ、毎週月曜日一時限を『修身教育』で天皇の神聖化、天皇陛下は生きている神様で拝み、天皇に忠誠を尽くす大人に育て、疑問視する者は『不敬罪』で逮捕投獄しました。成人女性は「愛国婦人会」「大日本国防婦人会」に所属させ徹底した国防意識を叩き込み、町内会に「隣組制度」を組織させ戦争体制への国民総動員の基盤を確立機能させられました。

「治安維持法」は拡大解釈を用い、度重なる改定で『悪魔の法』と怖れられ、国民の思想を締め付け「議会」も同法の餌食にされ、特高警察と憲兵が牛耳る恐怖国家へと突き進みました。

戦争への道は、用意周到に踏み固められて、気が付いたときは「国土の荒廃と敗戦という事実があるだけでした。

先日の新聞の「ある外国人」の「テレビでＰＫＯについて報道する時、必ず、戦車の映像を流しているが、あれではＰＫＯのイメージが悪くなる。そんな番組のスポンサーの商品の不買運動を起こすぐらいのことを自民党はやるべきだ」と言う記事がありました。「言論の抑圧」はこのような形で推し進められるのです。私は「信頼はいつも専制の親である。自由な政府は信頼ではなく猜疑に基づいて建設せらる」というアメリカ３代目大統領トーマス・ジェファーソンの言葉をモットーにしています。

報告2　シベリア捕虜体験（要旨）

話した人　ピース・キャラバン緑　橋詰　四郎さん

明治以降日本は「富国強兵」を『国益』に、帝国主義路線。目標へ向け総国民集団催眠術教育（マインドコントロール）を行い、敗戦で帝国主義は侵略だったと催眠術が解けた人と、強烈な催眠術だったので今も解けない人がいる。国民を催眠術に掛けた教材は今も厳存していて、歴史の歯車を逆回転さす動力源になっている。

戦争で男を使い果たし、徴兵年齢一歳繰り下げ１９歳で満州第六国境守備隊へ配属「天皇は子どもを守備隊へよこした」と冷笑で迎えられた。８月９日ソ戦軍侵攻。１８日後方の直属外部隊の将校が兵２名を従え敗戦を伝え降伏を命じにきたが『日本軍に降伏なし』と射殺し戦闘を続行「戦闘激烈で命令徹底せず又指揮官を失うも自己の武器を信頼し戦闘を続行せよ」「負傷するも、自ら応急の処置を施し戦闘を続行し、戦闘に耐えざるも後退を禁ず』が天皇の命令なので、当然と守備隊員は誰も動揺しなかった。２１日、ソ連軍将校が白旗を大きく振りつつ日本軍へ「ミカドは１５日ラジオで負けを全世界へ向け放送した」と告げた。「玉砕してでも３時間死守せよ」が陛下の至上命令。人間爆弾でソ連戦車軍団と死闘の連続。天皇の負け宣言も知らされずソ連軍と対等に戦っていた。隊長は、降伏では無駄死にだと絶句。古参兵は、逃げるな玉砕と命じ断わりもなく先に降伏かよ…と荒れる。私は捕虜になれば家族が村八分だと、塩とマッチを油紙で包みソ連の柄付き手榴弾と拳銃を持って線路に沿えば釜山と単独行も直ぐ限界を知り、千五百人ほどの捕虜集団へ夜潜り込み「はぐれ兵」と拾って貰う。この兵隊達戦闘をせず降伏なので私もソ連兵を殺していない一人になりすます。

黒河から入ソ。馬鈴薯畑の薯を収穫し一食薯２コを食べ野宿の一カ月。秋はなく氷点下になり１／３行路死。クラスノヤルスクで洗顔・入浴・トイレ紙なしで二年強制労働。発疹チフス蔓延し血便垂れ流しで着替えもなく死亡者多数。死ぬと真っ黒な死体から虱が隣の患者へ集団移動する。誰も泣かない。明日は自分だから。

現在ＰＫＯ武器携帯云々と騒いでいるが、武器の向けられた先は必ず人であること、先に殺さないと殺されると覚悟すべきだ。

⑸ 参加者からの発言

●弾圧された人をかくまった経験があるが、戦争中は正しいことを言う人がみんな逮捕投獄されていた。
●大企業に勤めていたので、政党支持の自由はなかった。退職して初めて自由に発言できるようになった。
●戦時中の情報制限で、知っていても知らせる手段もなかった。日本の将来を考えるためには情報の公開が是非必要。
●軍隊では戦車の下に飛び込む訓練ばかりだった。
●歴史の授業は事項と年代を覚えるだけ、祖父母にもっと話を聞いておくべきだった。
●私達は直接話を聞く機会が少ない、今まで「戦争」に対し違うイメージをもっていた。もっと話を聞きたい。
●戦争の話は空襲だけだった。知らない事ばかりだと痛感した。
●学校は表面的な事しか学べない。戦争中に生きていた人達の息づかいまで聞こえるようで感動した。
●ＡＳＥＡＮやその他いろいろな国の人の話を聞きたい。
●銃後の守りにも焦点を合わせてた話を期待します。

⑹ まとめ（小出　裕講師）

◎平和にとって厳しい時代がきている。
◎特に若い人は、自分たちは「関係ない」と言ってしまっていてはいけない。
◎二度と戦争を起こさせないように歴史に学んでいかなければと思う。

4 参加者の感想文

※実名なので頭文字にしました。

女性　Ｉ・Ｙさん

ＰＫＯのことで腹立たしい思いをもち、息子達が徴兵制のもと、『昔、来た道を歩く』ことに大きな不安を持ちつつこの「集い」に参加しました。

小さい頃、母が畑にいて、私もいたのですが、その時、飛行機が飛んできました。母はとっさに私を突き倒し母も畑に伏せました。爆音と同時にアメリカ艦載機の機銃掃射が蘇ったと悲しい顔で「ゴメン」と言ったのを覚えています。

花房さんの年表の話には、本当に、今私達が国家権力に巻き込まれていかないための何かをしないといけないと思わせるものでした。

橋詰さんの体験そのものの言葉に目頭を熱くしました。本当にあった、いかにも怖い話でした。二度とこんなことが非人間的なことが繰り返されないために。

「私たちは行動しなげればと」と、改めて思います。

「人間は、どうあっても大切な“人”そのもの」です。

「正しい戦争などありません！」

中３　Ｉ・Ｔきん

これだけ悲惨な戦争を、僕達は知らなさ過ぎると思いました。教科書にのっていないことが多すぎるので、本当に教科書は正しいことを掲載してあるのかと不安です。

男性　Ｉ・Ｈさん

「戦争体験を語り継ぐ集い」とは、どういったことが行なわれているのか、知りたくて参加しました。

「１５年戦争の概略」小出裕先生。「戦争年表の説明」花房達夫さん。「シベリア抑留体験」橋詰四郎さん。でした。感想として私は戦争年表が理解できた。他は、時間の都合ではっきりしないところがあった。

・安川寿之輔教授の調査結果をみて。①若い世代の貧弱な歴史認識。②日本人の戦争認識が被害者意識に偏り（１５年戦争直接・間接体験者。）

・家庭で語られた話題。

「被害的」食料難、原爆、近親者の死、中国残留孤児。

「加害的」朝鮮人慰安婦、南京大虐殺、生体実験。

・まとめ①悲惨な戦争体験が語り継がれて次世代に共有されていない。②近現代史軽視の誤った歴史教育（改善の急務）

私の感想として、満州事変、日中戦争と続いた中国への侵略戦争や３５年間の朝鮮植民地支配について、歴史の重さを感じ取りました。

男性　Ｏ・Ｔさん

今の社会と戦中の社会を比べてみると、非常に似ているのではないかと恐ろしく思いました。海外派兵としてのＰＫＯ、言論の自由の侵害としての厚生大臣の発言。教科書にＰＫＯ、自衛隊を盛り込み美化しようとする自民党政府。少しづつ戦争への道に向かって歩みだしたように思う。

ＰＫＯで思ったけれど、今の世の中情報がたくさんあるように思えるけど、真実を報道しているマスコミなど報道機関は一つもないと感じている。国会での牛歩を批判する人もいるが、少数派の権利だと知り認めるべきだ。平和・権利・生活を奪い苦しめているのは、どのような考えの人達か知り警告。守ろうとしているのは誰か、本当にしっかりした目をもたなければ、騙されてしまう。

花房氏の資料中にあった１９４０年、大政翼賛会発開式、全政党解散となっているがこれは誤りです。日本共産党を除く政党が解散して大政翼賛会に参入したということを、しっかりと押さえて置きたい。

ＰＫＯは阻止できる！　阻止しなければいけない！　過ちは繰り返してはいけない。平和な世の中でなければ、老人、障がい者、子ども、女性は生活していくことはできないということを　歴史が教えています。戦争になれば、「誰が苦しみ被害者になるのか」そして「誰が喜ぶのか」もう一度見つめ直す必要があると

思う。貴重な体験談をありがとうございました。

女性　S・Sさん

個人的都合で11時頃から参加させて頂きました。戦地での本当のお話を聞き、午後はテレビでその当時の一般の生活に。丁度、私共も19年1月3日、長男を栄養失調で亡くし、その後戦争が終わって、次男、三男はお陰で育ちました。しかし、生活は子ども達を社会人に育てるまでが大変でした。今日は子ども達が里へ行って留守なので、暑い日中も社会教育センターで涼しく、戦争体験を聞き、「おかゆ」「スキトン」を美味しく頂き、また「かき氷」までおよばれして極楽でした、ありがとうございました。

不戦兵士の会　花房　達夫さん

初めて参加した者として、気のついたことの一端を述べておきます。来年の参考になれば幸いです。

1小出先生の司会は大変巧く今後とも続けて頂けたらと思います。それに「まとめ」は大変有益でした。

2私の年表については作成に一カ月しかなく、自分なりに良い出来ではなかったと反省しています。私の説明がなくても理解できるようにしました。そのために教科書のコピーは止めて、その分各事項の説明に力をいれるべきだったと思っています。来年も会が存続すると思いますが、その有無にかかわらず、私自身の勉強の励みとして一年かけて作成するつもりです。勿論、企画が変更になり「年表」の必要がなくなっても、私自身のためですから、かまいません。

3参加者の発言の機会を多くし、その場合、私は一参加者として必要に応じ、私の作成した年表に従い説明・解説をしたり、質問に答えたりして雰囲気を盛り上げるようした方が良かったと思います。質問がなかった場合のために、2に書いたような「年表」が必要と思いました。

4婦人層の参加が少なかった。天候に左右されたとも思う。緑区内の小中高校へ生徒の出席を依頼したら、まさかこのような「有意義」な行事を断ることはないと思います。若い人の参加こそ有意義だと思います。事情もあったと思いますが「広報なごや」への記載が早過ぎたようです。8月号に載っていなかったので、7月号を探して見たら載っていました。ひと月以上も前に「知らせ」ではよほど関心のある人以外は忘れてしまいます。関心のある人は忘れないが。

5「雑炊」「お粥」「かき氷」は続けるとよい。展示物は市民が「死蔵」しているのも発掘して展示する。外国人は韓・中・フイリピンなど不法就労でない人を呼び親の被害を発表させ、現在の日本についての考えを話して貰い、この「戦争体験」を小さな国際親善とさせる。以上気の付いたことを延べ、今後の参考の一端ともなれば幸甚でございます。

8月17日

5　参加者へのアンケートまとめ　　左から☞☞☞右へ

(1)　アンケート回収数　男＝６人　女＝１４人　計＝２０人

(2)　年齢別

	小学生	中学生	大学生	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男	1	1	1			2		1		6
女			2	1		2	4	3	2	14
計	1	1	3	1	0	4	4	4	2	20

(3)　職業別

	小学生	中学生	大学生	勤め人	主婦	自営業	自由	無職	その他	合計
男	1	1	1	1			1	1		6
女			2	3	8			1		14
計	1	1	3	4	8	0	1	2	0	20

(4)　居住別

	名古屋市内			
	緑区	区外	名古屋市外	合計
男	5		知多郡１	6
女	１０		知多郡　豊明市　瀬戸市　東京都　各１	１４
計	１５	0	5	２０

(5)　参加の動機

	広報なごや	チラシ	友人知人	その他	合計
男	1	3	2		6
女	3	1	8	2	１４
計	4	4	１０	2	２０

(6)　全体的な感想

	よかった	まあまあだった	つまらなかった	合計
男	5	1		6
女	１３	1		１４
計	１８	2	0	２０

(7)　一番よかった企画　※複数回答がありました※

	座談会	水団・芋粥	ビデオ	展示コーナ	かき氷	合計
男	2	1	2	2		7
女	8	7	1		3	１９
計	１０	8	3	2	3	２６

6 むすび

今回は企画段階からの市民参加を目指して実行委員会方式を試みた初の会になりました。準備のための集りは4回、本番日の役割等にも市民の方の積極的な参加があり。貴重な経験を体験させて頂き、今後もこの経験を積み上げていきたいと思います。さらに、来年以降はもっと多くの若者たちの参加を期待しています。

「不戦兵士の会」「ピース・キャラバン緑」「熱田空襲を記録する会」「半田空襲と戦争を記録する会」「戦争遺跡研究会」「あいち・平和のための戦争展実行委員会」その他、平和を考えるグループ、平和運動の方々の多大なご協力を頂き感謝すると共に、このネットワークが生まれたことを大きな収穫として喜んでいます。

また、宣伝について考えさせられることも多くありました。例えば、新聞社の本番日取材については、実行委員の一人が出した一枚の「案内はがき」であったし、手作りで進めることは大切なことだが、宣伝についてはマスコミ等の手を借りることも大切である。

実行委員会の熱意と裏腹に本番日の来場者は予想以下であったので、来場者拡大に一層の勉強をすべきと思う。今後は、単発事業として終わるのでなく、他の事業と組み合わせて、内容の充実と準備する者と来場者の拡大を図っていきたいと思います。各方面の運動や団体、事業と連携を強めることによって、さらに意義ある事業展開が期待できるのではないかと思っています。

国民的な記憶【あの戦争】が、歴史の闇に吸い込まれ、私達の耳にまた【あの軍靴の響き】が聞こえてくるようなことになれば大変です。戦争体験が風化していく中で、平和の問題を積極的に取り上げ、自由に議論できる場を設定提供することが『社会教育施設』の使命であると確認し締め括って、感謝とお礼を申し上げます

緑社会教育センター

第Ⅱ部《資料編》

第四回　戦争体験を語り継ぐ集い
平成四年八月九日　日曜日

	第2集会室	第3集会室	ロビー	料理室
09:30	会場づくり	各種展示作業 敗戦詔書流す	受付と 案内	料理 準備に 入る
10:00	座談会 ①開会・講師紹介 ②15年戦争の概略 講師　小出裕先生 ③戦争年表の説明 不戦兵士の会 花房達夫さん ④シベリア捕虜体験談 ピース・キャラバン 橋詰四郎さん ⑤参加者からの発言 ⑥質疑・応答 ⑦まとめ・小出先生 ⑧歌唱指導 さとうきび畑			食事準備 完了
12:00	⑨閉会			戦時食
13:00			かき氷	試食終る 片づける
13:30	ビデオ はだしのゲン	展示品説明 交流会開催	かき氷 終る 片づけ	
15:00	終了 片づけ	終了 片づけ		

第Ⅱ部

1 日本軍の派兵（明治初年～昭和２０年）

不戦兵士の会　花房　達夫

明０８（１８７４）台湾征討
０８（１８７５）江華島事件
２７（１８９４）日清戦争
２８（１８９５）閔妃（ミンビ）殺害
２８（１８９５）台湾派兵
３３（１９００）義和団事変
３７（１９０４）日露戦争
４０（１９０７）朝鮮合併戦争
４２（１９０９）満州に常備兵
４３（１９１０）日韓併合

征韓派をなだめる為、台湾で琉球漁民が殺害され抗議派兵
実に賠償金で英国より軍艦一隻購入。
朝鮮に開国を迫り軍艦「雲揚」で江華島砲撃し修好条約押しつけ。日本人への裁判権無し、日本通貨自由使用可に。
派兵数174,017名、戦死1,161名、戦病死7,234名（陸軍）
韓国皇室継承を永久断絶目的で日本守備隊兵を軸に役人、民間日本人、巡査も加わる。親露派を理由に殺害。
台湾島民の反日闘争２ケ師団投入　1916年迄21年間続く。
清国在の外国人排除運動、在清８ケ国より軍隊47,000出動
日本軍は内22,000名と最多派兵。
派兵数945,394名。戦死81,455名。遼東半島９９年租借。
日本人保護と鉄道警備理由で線路10キロ当り兵15名配備。
合併反日闘争。鎮圧攻撃2,852回
線路10キロ15名条約を破り一方的に派兵増兵し関東軍誕生
第一条　韓国皇帝陛下は韓国全土に関する一切の統治権を完全かつ永久に日本国皇帝陛下に譲与す。この日（8月22日）から韓国名は地図から消え「日本国」に韓国人は大地を叩き「哀號」と号泣。初代総督寺内大将は「従わぬ者は死ぬ」と『武断政治』を強行。みせしめとして朝鮮各地から有力者強引逮捕800名。内１０５名投獄。「１０５事件」と恐怖心を与える。詩人石川啄木《地図の上朝鮮国に黒々と墨を塗りつつ秋風を聴く》を発表。
ドイツ租界地青島・植民地南洋諸島攻撃占領戦死394名
ドイツが中国に対し保持していた権利を日本が継承し満州等の事実上日本領土化の要求を認めさせた条項。
ロシア革命阻止目的、派兵数75,000、２ケ大隊全滅敗北す
中国の統一運動妨害目的、在留日本人守ると称し4,200名
右記理由、派兵数20,000名
関東軍満州の軍閥張作霖大元帥乗車の列車毎爆殺６月４日
９月１８日関東軍自作自演鉄道爆破満州制圧天皇「優渥勅語」労を讃える。１５年戦争、第二次世界大戦の導火線。
世界の目を満州から反らす目的、上海で買収した中国人に日本人を殺させ、いいがかりを付け。海軍を含む一ヶ旅団派兵。「爆弾三勇士」捏造。歌に銅像も建立。国民狂喜す
７月７日、蘆溝橋で中国軍を挑発軍事演習戦争に発展さすソ満国境線をめぐり日ソ交戦　7,000名投入、引分。
右記と理由同じ　投入兵33,000名戦死48%大敗北。
仏領印度支那へ侵攻交戦しつつ南下。世界中の非難無視。
仏領印度支那へ侵攻交戦しつつ南下。南方作戦基地確保。
１１月３日北支司令官「焼く・殺す・犯す」禁止令出す。
１２月８日密かに準備した不意討ちを『奇襲』と発表。

大０３（１９１４）第１次世界対戦
０４（１９１５）２１ケ条強要
０７（１９１８）シベリア出兵
昭０２（１９２７）最初山東省派兵
０３（１９２８）二次・三次派兵
０３（１９２８）張作霖爆殺
０６（１９３１）柳条溝事件（満洲事変）
０７（１９３２）上海事変
１２（１９３７）日中戦争
１３（１９３８）張鼓峰事変
１４（１９３９）ノモンハン事変
１５（１９４０）北部仏印侵攻
１６（１９４１）南部仏印侵攻
１６（１９４１）三光作戦
１６（１９４１）太平洋戦争

2 未遂を含む軍の陰謀

明11（1878）竹橋事件　前記と重複するものあり
西南戦争の論功行賞、待遇改悪に不満の近衛砲兵大隊兵士200余名反乱。53名銃殺。残余の者有罪。

昭03（1928）張作霖爆殺
06（1931）三月事件　陸軍の陰謀。
06（1931）十月事件　陸軍中堅将校のくーデター未遂。
06（1931）柳条溝事件　右と同じ。
07（1932）上海事変　陸軍の陰謀。
07（1932）五・一五事件　海軍青年将校の国家改造クーデター。死刑なし。
11（1936）二・二六事件　陸軍青年将校指揮のクーデター。1883名。死刑軍人13名民間人4名。

3 軍・右翼・警察等による殺害と未遂事件

明28（1895）閔妃殺害事件　日本の将来のため韓国皇室血統者断絶の暴挙を行なう。
大12（1923）甘粕事件　社会主義者大杉栄夫妻と甥を甘粕憲兵大尉と部下が殺害、懲役10年が3年で釈放後、満州映画株式会社理事長に。

昭04（1929）山本宣治殺害　労農党代議士、国会開催中右翼に殺害さる。
05（1930）濱口首相事件　右翼による殺害も未遂に終る
07（1932）井上前蔵相　右翼による殺害。
07（1932）犬養首相殺害　五・一五事件。
08（1933）小林多喜二死亡　作家。警察による拷問死。
11（1936）相沢事件　相沢陸軍中佐、軍務局長永田陸軍少将を斬殺。
12（1937）二・二六事件　陸軍大将渡辺錠太郎教育総監・高橋是清蔵相・内大臣斎藤実海軍大将。殺害。重傷、海軍大将鈴木貫太郎侍従長。

4 いままで以外の事項

明05（1872）学制制度　学校設立計画を発表。時期尚早く残念計画倒れ。
05（1872）教科書自由発行　それでも教育は必要と教科書自由選択制議論。
06（1873）徴兵令制定　男子のみ20歳、3年間ご奉公。
15（1882）軍人勅諭発令　天皇の軍隊であると宣言。
16（1883）教科書認可制　採択の可否につき、監督官庁の認可制…締付け始まる。
19（1886）小学校令公布　尋常科4年・高等科4年。教科書検定制実施。
教科書検定制　政府側からの査定、妨害の恐れある教科書不採用。
22（1889）徴兵令改正　中卒は1年志願兵制度、師範学校卒は6週間入隊。
22（1889）憲法発布　天皇陛下の恩恵で臣民に下賜されたありがものと発表。
23（1890）教育勅語発布　天皇陛下の絶対性、神聖性が付与されたもの。
23（1890）第1回総選挙
24（1891）祝日・大祭日儀式規定制定　御真影・教育勅語・祝祭日、君が代・唱歌・和菓子頂く。
33（1900）愛国婦人会発足　軍事援護団体で発足後、軍の指導下に置かれ、帝国軍国主義推進団体へと発展する。
33（1900）小学校令改正　教育義務後、保護者の理解度今一、就学率強化へ改正。
36（1903）国定教科書制定　子どものうちから教育勅語精神を叩き込む編集の強化。
41（1908）小学校令改正　義務教育尋常小学校4年を6年に延長。
43（1910）在郷軍人会発足　軍人精神を国民的規模に発展させる媒介任務。
43（1910）朝鮮合併　公用語は日本語・氏名は日本式・会話日本語と締付ける。

大07（1918）米騒動　米の高騰に富山県の女性達が蜂起、全国に波及し107市町村へ軍隊鎮圧出動。多数逮捕5，112名有罪投獄。

08（1919）三・一独立運動　パリで開催中の国際会議で日本人を含む朝鮮人独立宣言と同時に朝鮮半島全土で独立デモ。鎮圧され負傷者14，600名。死者6，670名。投獄52，730名。独立運動日本敗戦迄続く。

12（1923）関東大震災　朝鮮人暴動説。日本人のリンチで6，000名以上殺害さる。

14（1925）学校軍事教練　中学校以上で軍事訓練、指導は学校配属現役将校が監督。

14（1925）治安維持法　社会主義弾圧目的拡大解釈に発展「悪魔法」に成長。

昭03（1928）治安維持法改正　軍事色に合せ更に強化、国会にまで侵入の恐怖国家誕生。

07（1930）大日本国防婦人会　関東の「愛国婦人会」に対し大阪で組織。全国波及。

10（1935）青年学校令　青年訓練所、実業補習学校を統合し授業の40%軍事訓練。

10（1935）天皇機関説　美濃部達吉博士の学説を攻撃し貴族院議員辞職さす。

11（1936）軍人大臣現役制　軍人の大臣は現役軍人と決め、後に弊害をもたらす。

12（1937）宇垣内閣組閣不能　陸軍大臣を陸軍は出さず。組閣出来ず流産。

12（1937）南京大虐殺　ドイツ人新聞記者が目撃取材し世界へ発信30万人とも。

13（1938）国家総動員法　あらゆる物資、国民徴用、労働条件を国が掌握管理。

14（1939）青年学校義務制　男子12歳～19歳、軍事訓練習得。場所学区内小学校。

14（1939）興亜奉公日制定　毎月一日に八紘一宇の精神を奉じ「亜細亜全土を天皇の臣に興す」日と定め、亜細亜の国々が従うように神社仏閣へ参拝奨励指導す。後に八日の大詔奉載日に吸収される。

14（1939）国民徴用令公布　国民を軍事工場へ強制就労、中小商工業者『白紙召集』と恐怖す。大阪の袋物商の旦那が名古屋の中島航空機へ工員にされ単身赴任。四国の女性が半田の航空機工場へ女工扱

14（1939）第二次世界大戦　9月1日ドイツ軍ポーランドへ侵攻世界大戦始まる。

15（1940）斎藤達夫議員除名　国会で平和内容演説、軍の逆鱗に触れ強制除名させらる

15（1940）日独伊三国同盟　国際社会からの孤立化へ拍車雪達磨転がるごとくに。

15（1940）隣組制度強制実現　内務省の訓令。10戸前後で組織し、上意下達徹底確認。常会を義務化に責任者を決め、相互監視の連帯責任制

15（1940）大政翼賛会発開式　日本共産党を除き各党挙国一致団結。仲間外れは非国民

16（1941）国民学校令公布　教科を簡略化にし「皇国精神・忠君愛国」教材の増加。

16（1941）治安維持法改正　更に強化処罰対象拡大、死刑罰増加、予防拘禁新設等。

16（1941）太平洋戦争　12月8日宣戦布告なし攻撃を「奇襲」と国民大興奮。

17（1942）シンガポール占領　日本領土「昭南島」と命名。反抗民間人4万殺害する。

18（1943）学徒出陣　理工系を除き徴兵猶予停止。

18（1943）徴兵年齢特例　20歳を19歳に、昭和19年4月から実施。

19（1944）学童集団疎開　全国13都市の初等科3年以上縁故のない者集団疎開。

20（1945）沖縄戦　市民犠牲94，000名。日本軍による殺害800名以上。他自決強要された者多数。天皇を守る理由なら軍隊が国民を殺害してもよいと参謀発言。

20（1945）決戦教育措置法　国民学校初等科を除き授業は昭和21年3月31日迄停止令。

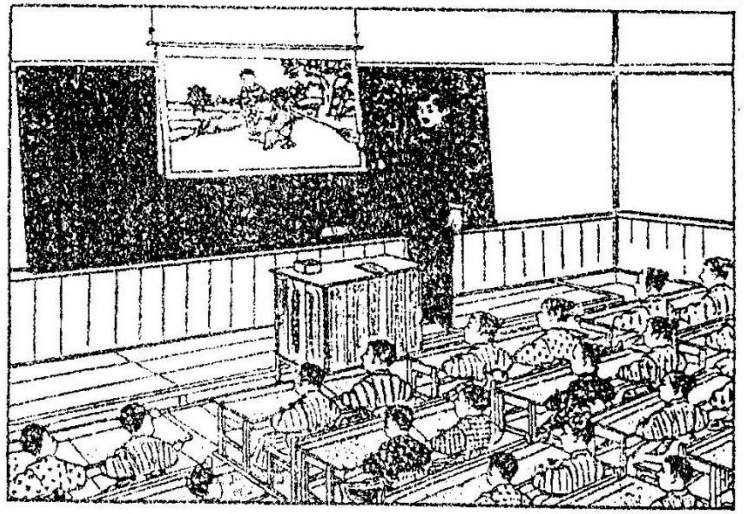
20（1945）義勇兵役法発令　男子15～60歳、女子17歳～40歳。国民義勇兵武器竹槍。

20（1945）7月26日ポツダム宣言通告。天皇の処遇不明確で拒否する。

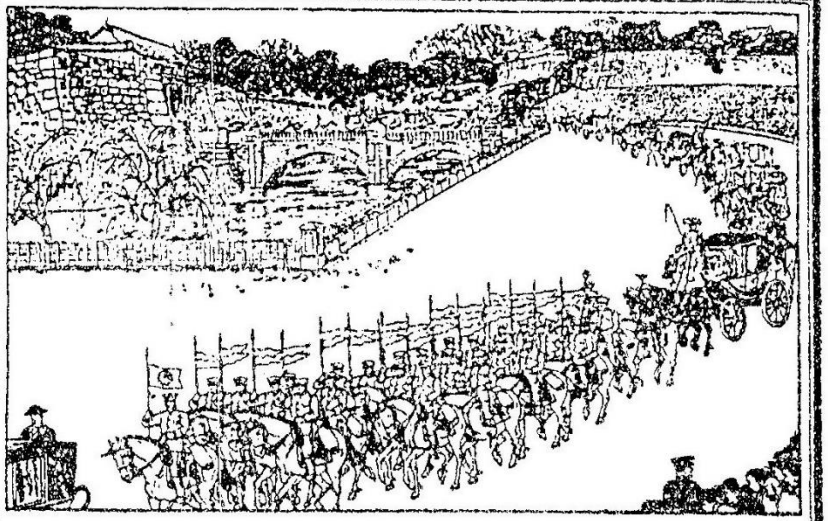
ここで降伏していたら、広島・長崎・ソ連侵攻・8月15日迄の各地戦場・日本本土空襲と艦載機攻撃・樺太を含む北方領土喪失・朝鮮分断国家・満洲日本人棄民・シベリア捕虜抑留等その他国民の苦痛はなかったのに、

あるのは【朕ハココニ国体ヲ護持シ得テ】の13文字のみ。

一(一)



一(二)



十六

テンノウ
ヘイカ
バンザイ。

靖国神社に合祀され、神となった国民の数の内訳は、次のとおりである。

明治維新前後の内乱	七七五一名
西南戦争ほか	六九七一名
日清戦争	一万三六一九名
台湾出兵ほか	一一三〇名
北清事変（義和団事変）	一二五六名
日露戦争・韓国鎮圧	八万八四二九名
第一次世界大戦・シベリア出兵など	四八五〇名
済南事変（山東出兵）など	一八五名
満州事変など	一万七一六一名
日中戦争	一八万八一九六名
太平洋戦争	二一二万三六五一名
合計	二四五万三一九九名

（最近の靖国神社側の資料では合計二四六万余名となっている）

大江志乃夫「靖国神社」岩波新書

十七

キグチコヘイハテキノタマニアタリマシタガ、シンデモラッパヲクチカラハナシマセンデシタ。

シベリア捕虜の頃

ピースキャバン・みどり　橋詰　四郎

★始めに。

敗戦時満州の日本人男子民間軍人を問ずシベリアへ、婦女子は逃げ惑い強姦され多くの戦争孤児が発生した。ソ連の戦後復興に60～70万人が強制連行され、1年から長い人は13年間強制労働。酷寒・飢餓・重労働・疫病で6～7万人が望郷の願いも空しく死亡。死ぬと告別も、葬儀もさせず、一糸纏わぬ全裸で原野、渓谷に捨てられ白樺の肥やしにされ、河の近くは河に流された。

★敗戦色が濃くなると、皇室と政府は恥も外聞も捨て『国体護持』即ち、『天皇制』を守ることだけに奔走し、代償条件としてスターリンに無傷の関東軍をソ連の戦後復興の労働力にと提言した。敗戦の詔書に『朕ハ茲ニ国体ヲ護持シ得テ』とある。シベリア捕虜が国から棄民されたと怒る根拠はこのためで、五族協和・王道楽土の満州で日本は『東洋の鬼』と呼ばれ、独立運動愛国者を日本は『匪賊・馬賊』と呼んでいた。

★『国体護持』に狂走する間に、沖縄では防諜のためと日本軍が守るべき日本人を殺し。日本本土への空襲、広島・長崎の悲劇。北方領土喪失、朝鮮半島の分断国家、在満邦人棄民など、『天皇制』を守る犠牲にされたのである。又。強制連行、従軍慰安婦、南京大虐殺、731部隊には沈黙頬被りをしている。

★ソ連はシベリア連行後、病弱者と国際法に抵触する18歳未満者を不要者と徒歩で満州へ追放する死の行軍が昭和21年3月の厳冬に行なう。この中に戦友「菅井」もいて黒河事件（S21.6.21）550名が監視の八路軍数名を殺し脱出。半数以上が捕まり殺され。「岩間」はシベリアレ満洲追放レ八路軍レオロチョンと流転の運命をたどり、現在、中国名、莫宝清（マオ・パウチン）と名乗り、黒龍江省遜克県政治協商福主席：：日本では副知事級。8月15日の敗戦も知らず21日迄、ソ連の強力戦車軍団との死闘も（今日は12月8日）に書いた。

★ソ連は「極東の勝利」を発刊し、この中で、私達との戦闘を、関東軍最強の軍隊であったと記述しているが、ここでは『捕虜の頃』だけにする。

●抑留された場所。クラスノヤルスク第7収容所（シベリア鉄道とエニセイ河の交差する市。収容所は半地下の穴倉囚人用）1500人ぐらいが道路・建築・工場・荷役など、ソ連軍の銃口に背後から狙われ、強制労働を強要された。

●気温。氷点下４５度まで体験（バナナを凍らすと釘が打てる）空中の水分も凍り輝き浮遊する、神秘のように美しいが感動など皆無。明日は俺が死ぬ番かと思うだけ。トイレは小屋の中を深く堀り、板が渡してあるだけ。排泄した湯気が目の前で霜になり天井に付着し、逆さ樹氷の形で垂れ下がる。溜まると板を取りバールで崩し捨てにいく。体力３級の仕事。お尻やチンチンを見ながら相手が終るのを並んで待つ。

●日の出と日没。夏、３時頃明るくなり、太陽は北から出て、東→南→西と天空を大きく回り、北へ沈む。２３時頃、野球が出来る明るさ。冬、１０時頃明るくなり、太陽は南から出て、南の地平線をかすめて南に沈む。１５時頃暗くなる。日本の夏はザールカ（暑いか）と聞くので、夏は太陽が北のシベリアへ行くと、もう一つ南に太陽が現れるのでムノーガザールカ（凄く暑い）と言ったら、大嘘付き野郎と爆笑された。

●捕虜の死ぬ順番。体力の無い者と補充兵（現役でなく召集兵）からで、虱による発疹チブス（血便垂れ流し）飢餓食による栄養失調・強制労働による過労死・日本人の誰もが経験しない酷寒などなど。壁にもたれている者に食事（飢餓食）を教えると死んでいる。捕虜は生きている時は、虱と南京虫に食われ、死ぬと全裸で捨てられ、狼に食われると話し合った。自殺者の遺書に『捕虜は軍人の抜け殻にして、腰に飯盒をぶら下げ、木の芽、草の葉を探し、残飯捨て場に集まるを常とす』と、あったし、突然大真面目に帰れるぞと叫んで、荷物を持って立入り禁止の鉄条網に近づき、監視塔から射殺される者も出た。

●食料。粟・高粱・ふすまなどの塩なし粥が少量の飢餓食で、使いかけの鉛筆やフンドシで塩（岩塩）と交換。半年ぶりの塩味にこれが最高の味だと涙が出た。生野菜はなくデキモノが出来。見る見る痩せ衰える。キツネ（ロシア人女医に付けた渾名）の前へ全裸で立つ、キツネが先ず洗濯板のあばら胸と陰毛を見る。虱駆除で常に陰毛は伸びると剃られるのだ。次に後を向かせ尻の肉を摘む。聴診器は無い。尻の肉の厚さで健康度を決める。屠所へ行く豚以下だ。１級から４級に振分け、３級は軽作業。４級はＯＫ（オーカー）と呼び入院。医者のノルマは入院を減らし働く者を増すから、この犠牲は３級に集中し死亡率が高い。私は技術者で蒸気機関車修理工場へ決る。翌春、農業経験者調査で、「生まれながらの農民」と記入し、農場でカルトーチカ（馬鈴薯）植え。農場へ着いたその日、カプースカ（キャベツ）の葉を２～３枚食べたら、重い足が軽くなったのに驚く。生野菜のお陰か捕虜のデキモノも快方に向き体力もつく。農場ではいろいろあったが、紙面があれば書こう。

●蒸気機関車修理工場。工場では５００人以上の捕虜が、ロシア人と同じノルマで対等に働いた。工作機械は日本製が多く、特に新潟鉄工所の機械が多かった。私は蒸気機関車のボイラーの鋲を旋盤で削る作業。職場の労働体系は。

①日　勤　　９時～１７時　７人　旋盤４人　ボール盤　２人　監督　１人
②準夜勤　１７時～夜１時　５人　旋盤３人　ボール盤　２人　監督　なし
③深夜勤　夜１時～朝９時　１人　旋盤１人。私は一台の旋盤を３人で受け持ち、他の２人はロシア女。オーリャー（主婦）マローセェー（娘）で、①②③を３人で循環し、②③の作業は昼間監督が準備し、他に工作機械ベルト調整修理の老人がいた。老人とは肩を抱き合い挨拶し、互いの耳元で私がレーニンドラーク（レーニンはアホや）と言うと、老人はスターリンイジナーホイ（スターリンは何処かへ行っちまえ）と云う仲になっていた。又、職場のリトアニア人は、俺はロシア人を殺していないのにシベリアにいる。お前は殺しているから帰れないと言う。彼は鉄板にチョークでリトアニアを地図で書けと言う。そんな国は知らんと言うと、悲しい顔になり泣いてしまった。収容所と工場の往復はソ連兵が監視。③は私一人のためか工場側からの娘一人。私と腕を組み歩調を揃え歩かすから、栄養失調の私は引き摺られるのみ、これが世界一の殺人訓練を受けた関東軍歩兵かと情けなくなる。今に見ておれ。（女と歩くも腕組みするも捕虜で初体験とは）

●橋詰ロシア人と同調、監督（ガマンジェル）首にする。監督はラッシンコと呼ぶ男で、ダバイ（急げ）しか言わない。②の勤務？で行くと、①が暖房用スチーム管に並んで腰掛けニラボーター（仕事拒否）。クツズーミ（私はこう呼ばれていた）も座れと言う。ラッシンコ歩き回り乍ら喚いている。労働者が反論すると仲間がダーダー（そうだそうだ）私も一緒にダーダー。ラッシンコ首で女監督になる。彼女は駒ネズミのように働き、鋲を使うエアーハンマー組の連携も優れ、段取りも抜群で、私に良くしてくれた。買物は彼女に頼み、禁制の酒も両手を広げ、両肩をすくめる仕種をしても、笑って買ってくれた。

●ノルマ（一日に達成さす仕事の量）食事の量もノルマで決め増減する。ソ連は不法抑留・背中に銃口を押しつける強制労働の不満を、捕虜同士の「食べ物の恨み」へ転嫁させ捕虜はこの罠に捕われる。いくら説明しても腹ペコは食べ物に勝てず、ソ連の思う壺。本当に狡猾なやりかたで血を見る争いにをする。大学教授も。ノルマ、捕虜が持ち帰り日本に定着した言葉。基準を１００とし超えると表彰、不足は罰。ノルマの決め方は不公平より出鱈目。電柱の穴掘りに木製スコップ・金属スコップでもノルマは同じ一日穴何個。少ない道具数より多い頭数でノルマが決められる。

●捕虜の労働賃金（働くほど賠償金が減額されると言われて）女監督になり、ロシア人と同じように伝票が切られ一カ月精算。職場のロシア人は一カ月８００～９００ルーブルぐらい。私は１２００ルーブル稼いだ月もあった。ノルマ１８０％ハラショラボター（模範労働者）の栄冠も一度だけ。月４０１ルーブル稼ぐと、天引き４００ルーブル、これは捕虜の衣食住から病人の治療費に当て、残り１ルーブルが手取。手取り上限は１５０ルーブルで、残ったお金は賠償金になる。諸君が働くほど日本の賠償金は少なくなると嘘を平気で言う。一番の理想は月５５０ルーブル稼ぎ、天引き４００ルーブル取られ、手取り上限満額１５０ルーブルを受け取ることだ。私は月６００ルーブルを超えない計算をし、超えた伝票は主婦と娘に「ナ」。「ナ」とは差し上げますの意である。主婦と娘は監督に話し４人の秘密。収容所ではソ連軍に内緒で１０１ルーブル以上は１００ルーブルを取り、残りを出し合いマホルカ（最低の粗悪煙草・新聞紙で巻いて吸う紙巻き煙草）を買い無収入者に配分。お金を出すのを拒み貯めている人もいた。外出もなく捕虜には買物の機会もない。ひたすら貯めて、ダモイ（帰国）の服装検査で使えぬ金は持っていくなと没収。ロスケの罠に見事に掛かったと笑ってやる。月末になるとロシア人から貸してくれと言われ、貸したが、踏み倒しもなかったが、助かったとお礼の品物を貰ったこともない。ピンハネ承知でクリームやポマードを買い入浴なし（入浴は年４回ぐらいの記憶）石鹸なし（石鹸は機関車のボイラーに巻いてある断熱用石綿）垢と油と埃りの顔と頭に塗り笑われもした。酒も飲めぬのにウオッカーを買わせ収容所で振舞った。飲む奴は今日は薄めてあるとか無いとか言い。八戸市の松村（漁師）は生還後手紙で、酒に酔わない、考えたらお前に飲まされ、酒に強くなっていたと書いてきた。

●クラスノヤルスクへの道。家族が村八分になると、降伏する前夜２１日朝水陣地を脱出、ソ連軍前線を擦り抜けホッとする間もなく周囲が敵になり後悔。逃げる途中既に降伏している非戦闘部隊に遭遇し拾ってもらい。逃げた道を再び北上。朝水戦闘地付近の凄惨な激戦地はそのままで、擱座された戦車、放置された死体の凄さに震える者もいたが、この兵隊達はソ連兵を殺していない、俺もその一人と黙り込む。（この死体は一年後シベリアから追放された上村らが埋葬した証言あり）黒河から入ソ。西向く貨車が停まると、進行方向を指しウラジオ、ロシア人はモスクワ。これを何日も繰り返しトンネルの続く地帯に入る。３６迄数えると前方に水平線の大海原が出現。日本海だ、ウラジオだと大歓声が上がる。海を指しウラジオ？。返事はバイカル、シベリアの真只中に連れられてきたと話す。又、幾日も西へ西へ走る。ロシア人のモスクワを「もう少し」と言うのも出てくる。帰れる組、帰れない組に別れ感情が昂ぶる。

●虱。９日ソ連軍の攻撃で地上兵舎全焼。山腹を掘り抜き厚さ１米５０糎のコンクリートで固めた陣地に入る。この陣地は昭和７年から９年に中国人に造らせ、完成するや防諜のためと、造った中国人全員を殺し谷間の湿地帯に埋めてしまう。他の陣地構築でも同じことが行なわれたと思う。敵陣へ豪雨を味方に奇襲、風下から夜襲、敵陣に接近するとすすり泣く声も聞こえ、そこへ手榴弾投擲し蛸壺に身を隠し逃げ帰る。敵は訓練演習通りに侵攻してきて、訓練演習通りに邀撃。人間爆雷で戦車を破壊し侵攻を阻止する。戦車は随伴歩兵に守られ、戦車に向かうと敵味方の区別無く火炎放射器で焼き殺すので、日本兵を見ると随伴歩兵は戦車から離れ逃げるので、戦車を次々破壊。肉迫攻撃用蛸壺は連日の雨で満水、ここに隠れ戦車を爆破する。以来衛生面はゼロ。体は異臭を放ち、皮膚病が蔓延。入ソ頃虱が加速度的に発生する。袖口、襟首から這い出てくるほどだ。虱による発疹チブスが蔓延し、血便垂れ流しが急増する。薬もなく、死ぬと汚れた真っ黒な体と、ボロボロの真っ黒いシャツから、生き血を求めて真っ白い虱がぞろぞろと隣の病人へ集団移するのを見ても、何とも思わない神経になっている。地獄だ。

●献血。点呼でキツネが、兵隊を助けたいが薬が無い。頼りは血液だけ血液型を調べる薬もないから０型だけ。献血者は３日休ますと言う。思えば何人殺しただろう。殺しにきた者を先に殺して生き延びてきた。今も毎日何人か死ぬ、死ぬと全裸で小屋に積み上げ、トラック一台分になると何処かへ捨てに行く。明日は我身で死に麻痺だ。血便なしで綺麗に『３日休んで４日目に死ねば本望』と申し出る。戦友達は死ぬから止めよと言うが、「生きて帰れた人は俺の死様を母に話してくれと頼む」日本は２００ＣＣがソ連は倍の４００ＣＣに驚くも、よしこれで死ねる。不思議だ奴は「湯原」と言い、岡山で生きているし、俺も生きている。死んでいたら『シベリア版コルベさん』だったのに。

●ダモイ（帰る＝帰国もダモイと言った）ダモイの噂は何処からともなく出てくる。正月は日本だとか、紀元節、天長節、明治節、なんと天皇の祝日だ。たどると同じ人を一回りする。流した奴は、自分が流した事を忘れ、他人から聞いたと信じている。その内、ダモイと叫んで飛びだし、射殺さるだろう。

●欠礼（上官に敬礼をしないこと、上官侮辱罪で厳罰）点呼の後、准尉がキサマ欠礼だと大声で私の襟首を掴まえ何年兵だと怒鳴る。私の後に兵隊になった者はいない最低の兵籍。震えながら大声で、『捕虜初年兵だ！准尉殿は捕虜何年兵か』と叫ぶ。そうだの怒号で准尉は袋叩きにされ、階級章をもぎ取り将校室へ投げ込み大暴れになる。怖れをなした将校側は、階級章を取り序列廃止にしようと申し出。「殿」から「さん」になり、毎朝シベリアから、皇居に向かって敬礼も、大声で軍人勅諭を叫ぶのも廃止。圧倒的に多い兵は大喜び、皇軍

崩壊一寸有名になる

●新聞屋（ソ連将校、捕虜を共産主義者に洗脳する新聞を運ぶので渾名にする）最初の冬は大勢が死んだ地獄だった。春が来て雪解けと共に食料事情も少し良くなると新聞屋が来て、ソ連を目茶苦茶賞賛し共産主義を説くも、地獄の生還者には通じない。一緒に働いているロシア人も恐怖政治を怖れている。ベルト修理の老人は帝政時代を知っていて、スターリン・ヨッポイマーチと言う。（ヨッポイマーチ＝最悪の侮辱語、喧嘩で利のある者でも、この言葉を使うと負けになる程の言葉）新聞屋は胸を張って言う、諸君が日本に帰ると、ソ同盟が諸君にしたことが世界中に知れ渡る。諸君はロシア人より食料の配給も良い、感謝してほしい。諸君がマホルカに使う新聞をロシア人に買わせるので、市民から新聞が買えないと苦情が出ている。煙草に新聞を使うなと嘆願する。トイレにも使っているのを知らないのかと、買い占めに力が入る。ロシア女性に時計を持つものが増えた、理由は判っている。調べて判明した者は帰さないとも言う。イヤー新聞屋の言うことは本当かと疑う、ロシア人より食料が良いので元気な奴が現れたか。それにしてもこの程度の食料で。本当は泥棒癖の捕虜が戦友のを盗んでいるのだ。既に盗癖の捕虜が4～5人行方不明になっている。殺されてエニセイ河に流されていると思う。それでも泥棒は絶えない。春過ぎからアクチブが台頭する。アホ、スターリンの褌担ぎと冷笑していたが、転向者は早く帰れると急増し収容所を制圧する勢い。人民裁判で吊るし上げ自己批判を強制させ、密告者が増える。遂には転向者同士で密告、魂の安売り。アクチブに時効なしと、いまだに探している人もいる。

●農場。馬鈴薯（カルトーチカ）植え。収容所内は転向組が空威張りで嫌気がさした頃農民調査があり、生まれながらの百姓と書き見事当選。他の5人は純粋の百姓で彼らを頼るだけ、欠礼事件で名前も知られ好意的だし、言葉は彼らより少し出来る。マーリンケドバー（小さいの2つ）ボリショイアジン（大きいの1つ）植えつけの指示である。6人の捕虜を監視するソ連兵は10代の子供で、一番奇麗な娘の家を寝ぐらに選んでいるが、娘からすげなくされて見ていると面白い。畝と畝の間を歩き両側の畝に植えつけ、往復4畝で昼にしょうと始める。シベリアは広い折り返しに着く前に昼になる。弁当は出発地点に置いた儘だ、夏時間で早く始めたのに。ヨシとばかり大穴を掘り植えずに捨て、午後のノルマ500％と笑い転げる。悪事露見し叱られる。神妙に叱られているのに叱り方が悪い、日本の兵隊知っていると言って、何も知らない。ここに出来るカルトーチカはこんなに大きくなる。と、両手を大きく広げた時、神妙を忘れ爆笑した。その夜、私が倉庫番に話しかけ、別の捕虜が種薯をセルマーチ（盗む）農民出の捕虜は凄い、ついでに缶詰や塩漬け肉も盗む。捕虜を受け入れた家族と食べ物で親しみ倍増する、何が幸いするかである。親しくなると

作業も楽しくノルマも上がり、捕虜を受け入れた家族は羨望の眼差しで見られ、捕虜も鼻高々だ。この原因が泥棒で始まる処がノルマ王国で面白い。

●農場2。捕虜の一人がリスを掴まえると言う、監視兵も誘い丘の上で水汲み馬車を待つ。水汲みは娘の仕事である。穴に一人づつ付き、高い穴から水を流し込む、水に追われて何処かの穴から出るのを待つ。監視兵も娘も手伝う。針金で篭を空缶で風車を作り、大人気だ。捕虜の株跳ね上がる。

●農場3。捕虜は機関車修理工場で色んな物を作った。スプーン、フォーク、錠、指輪、剃刀、刀。木工は、つっかけ、椅子、テーブル、戸棚、机、本棚、食器棚。スターリン物資を頂き注文主の注文品を作る。刀は鉄道線路で作ると良く切れると、注文主に鉄道線路を盗ませていた。私は錠や指輪専門で、ロシアは泥棒が多いので、錠をプレゼントすると喜ばれた。指輪は砲金（ほうきん）で作る。ヤスリ、サンドペーパー、仕上げは針の先で磨くと金色に輝く。農場で捕虜の金歯とアジンナカバ（同じと）説明、農夫の一人が指輪を高く上げ、スコルコ（いくらか）と糶が始まる。別の農夫が来て、何が欲しいかと聞く。マホルカと言うと、私の帽子を持って走って帽子にマホルカを山盛りにして、糶は成立。一生懸命糶っていた農夫はポカンとして、周囲は大笑い。煙草は農家で栽培している自家製である。

●手紙（ピスモー）工場で労働者のマダームが小声で呼ぶ。付いていくと人気のない倉庫へ連れ込む。ゼンギー（お金）を貸せというのだろうか、別の男が隠れていてハンマーで殴るのかと警戒する。泥棒癖の捕虜が何人か行方不明になっている。防寒外套を着ると軍靴などたやすく隠すことが出来、私も持ち出される処を掴まえた経験がある。マダームは紙（ボマーガー）鉛筆（カランダース）を出し、手紙を書けと言う。字は知らないと言うと、クツズーミドラーク（橋詰はアホや）と言う。共産党に洗脳する日本新聞で、アメリカ人は何％文盲。ソ同盟は一人もいないと教わったのに。アメリカを好意的に書いていた日本新聞だが、次第にアメリカの悪口が増えてきた。ダモイに影響はと心配するも、転向組はスターリン万歳！アメリカ、日本帝国主義粉砕と叫んでいる。

●捕虜通信。抑留1年ぐらいか、転向組とノルマ上位者から順次葉書が渡される。何処にいる・誰といる・何をしている。は、書けない。文面はカタカナで欲しい物は書きなさい、送ってきたら渡すと言う。これを聞いて悽然とし、日本からの小包みが来てもまだ帰れないぞと、吊るし上げ覚悟で怒鳴る。葉書を貰った人は大喜び、小豆と砂糖（捕虜になってから砂糖を見ていない）餅を送って貰うと張り切り、毛糸の上下、腹巻も頼むと言う。一番組が小包みを待つ頃、私にも葉書が回ってきた。『キヨウアメ・アスハレ』私はこのように書い

た。福永隊長（福岡市）は、元気でいると書いて安心させろ。と、言ったが、これで充分と譲らなかった。福永隊長は葉書の文面から私を禅坊主「珍念」と呼ぶ。母はこの文面で、私が生きていること、アスは何年先かは判らぬが帰ってくると信じたと言っていた。

●数。点呼でソ連兵が捕虜を数える方法は、一人一人違う。二列に、四列に、五列と人によつて違うのである。五列で待っていると、二列にさせるなど。氷点下45度では行動も緩慢で、並び代えは朝から地獄である。福永隊長の特技は、今朝は何列に並んで待つかを事前に予知し、的中率が高いし数を誤魔化すのも上手で、点呼では他の隊より早く屋内に入れ、他の隊から羨やまれたものだ。氷点下45度での5分と30分では天国と地獄である。彼は日本側の監督で、工場で職場を回り捕虜の作業状態を見回る仕事だが、冬は私の仕事する旋盤の前の暖房用スチーム管に腰掛け、居眠りの特技を披露してロシア人から、ヤポンスキー　ガマンジェル　オーチンハラショ（日本の監督は良いなあ）と言われると、お前も日本人になれと、やり返していた。

●ツビティー（凍傷）ロシア人は障害者が多い、戦争かと聞くと、酒を飲んで外で寝てしまった人だと言う。朝、雑巾掛けをして、手をよく拭かなかったのか指先が痛い。工場に着き、手を出すと指先が真っ白だ。直ぐロシア人に見せると、大声で人を集めながら外へ連れだし、粉雪の上に手を置かせ、交代で汗を出しながら摩擦して助けてくれた。お陰で指8本切らずに済んだ。スバシーボー（有り難う）。

●橋詰、営倉に入れられ、日本に帰りたくない人とゼッケンを付けて働く。準夜勤、監督の指示した仕事中にエアーハンマー組が別の鋲を削れと言う。ハンマー組は2人一組。一人は捕虜で、ロシア人は相棒の捕虜を可愛がるが、奴は辛く当たる性悪でロシア人からも嫌われている札付きだ。監督の命じた仕事でノルマ一杯これ以上は無理と断る。ロシア人がノルマゼロだから大変なことになる。奴は両手を広げたり片手を交互に上げたりゼッスチャー入りで大声で喚き、相棒にお前も頼めと怒る。引地は私の両肩を強く揺り「頼む休ませてくれ」私も少し覚えたゼッスチャーで掌を相手に向け、両肩を少し持ち上げ、ニズナーユ（俺は知らない）。気が付くとロシア人が集まり出し成りゆきを注目。ノルマゼロかの大事件なのだ、奴は監督は俺だと迫る。ブロシューウチベヤラボーチー（嘘付けお前は労働者）と反論。周囲からそうだと応援の拍手に奴は激怒し、ヨッポイマーチと叫びハンマーで殴り掛かる。殺人訓練の短剣術で見事にかわし奴の額から血が出る。血を見た途端「銃殺刑」と頭を横切る。私の突に奴は逃げる。ロシア人から拍手も出て肩を叩いて賞賛する者もいる。逃げたのでなく監視兵を連れてきて逮捕される。私はヨッポイマーチだけを強調

し、ロシア人も証言してくれる。営倉罰だ営倉は眠ると凍死する間接死刑小屋なのだ。体温が下がり睡魔が襲う。足踏みや体を壁にぶっけ睡魔と闘う。意識朦朧の中「珍念寝るな」と、福永隊長が一晩中外壁を叩き励ましてくれ生還する。事件は捕虜にもロシア人にも尾鰭付で知れ渡り、英雄にされたり無法者にされている。引地は相棒が替り優秀労働者に推薦され食事も増食組に入る。

●ボイラー故障工場内凍り一週間操業出来ず。ボイラーの一基より煙が出ない。工場の水道も凍って出ない、暖房用スチーム管も冷たく誰も腰掛けない。火を使う板金鍛冶に集まり暖を取り仕事をしない。3日目、ボイラーの特別鋲を旋盤加工することになる。テーパー付で図面通りに出来ず不良品ばかり、鋳造工場で追加する始末だ。娘（マローシェー）はリタイヤ。主婦（オーリャー）も正しいテーパーを出そうと、寒いのに汗を出し奮闘している。肩に金モールを付け胸に勲章をぶら下げた偉い人が何人かいて、それを更に大勢が取り囲んでいる。女監督はオロオロして一寸した見ものだ。動いている機械はここだけでオリャーは半泣きの顔である。私は、オシャカと図面の誤差を示しアドバイスする、声を出して話しているのはこの3人だけで異様な雰囲気である。監督が私を指名。オーリャーがホッとする顔になる。私はアドバイスするまでに理解していたので、機械を調整し、粗削りでサイズを計りながら、正しい寸法になるようセンター調整し、不良品なしで一本完成。後はマローシェーでもオーリャーでも出来るので二人に任せる。私は、どよめきの歓声を受け、勲章連の監獄行きもこれで中止かと一瞬後悔するも，これが後日私を助けることになる。

●使役。私は勤務？体系で昼間収容所にいる方が多い。当然昼食に戻る者の食事準備をする。最初の一年は配分で殺気立ち血を見る争いにもなった。ノルマ通りソ連の指示通りと、不公平なノルマで優位な者が承知しない。この時、社会的地位の偉い人の醜さを体験する。この部屋の30人は生きて帰ろうと戦友と押し切る。戴きますでなく配分に納得の言葉で食事が始まる。病院使役から帰った者は青い顔をして食べない。腸や胃、内臓物や目玉を埋めさせられたと。大変な国へ連れられてきてしまった。

●使役2。休日に工場労働者と捕虜の食料倉庫番に出された。老人が銃と犬で番をするが泥棒によく入られる。倉庫番と泥棒がグルは公然の秘密である。犬は主人に忠実である。収容所長は陸軍中佐、独ソ戦で負傷しビッコで杖をついている。向こうから来るので、犬にウーとけしかける。犬は腹這いになり唸る。老人は止めろと手で合図する。中佐が前を通る頃犬は腹を地面にこすりウー。飛び出し準備完了姿勢である、中佐をやりすごした処で黙って犬の尻を叩く。犬は吠えて飛びつく、良い方の足で犬を蹴ろうとして、悪い足が残り転倒す

る、駆けていき犬を離す。中佐は紳士だスバシーボーとお礼を言う。老人と肩を叩き合って大笑い。収容所で話し大笑い。悪戯ばかりしていると帰れないぞと、よく言われたが、本当にその時がこようとは。

●万年筆。軍隊に入る時、ネーム入り万年筆を貰った。満州を逃げ回っている時、食べ物と交換しょうとしたが、名前が彫ってあるので駄目と言われた、日本軍が勢いを取り戻した時、殺して盗ったと証拠品にされるからだ。ソ連軍の将校当番になった斎藤が貸してくれと言い貸す。将校が欲しいと言い出した、どうすると相談してきた。俺が持っていてソ連兵に見つかれば略奪されるからいいよと返事する。将校が直接お礼を言いたいと、一個3，5キログラムの黒パンを持ってニコニコして来る。一度黒パンを枕にしたかったので私もお礼を言う。一分ほど枕にして戦友6人とペロット食べてしまう。なにもないソ連。

●橋詰思想委員会にかけられる。作業を快調に飛ばし早々にノルマ達成。余った時間で他の職場探検に出かける。部屋の中から悲鳴が聞え飛び込む、歯医者で足踏みベルトで機械を回し治療している。こちらが悲鳴を出したい。帰ると旋盤が壊れている、怠けたいか、ソ連の生産力を妨害、低下させたいかで調べられると福永隊長が教えてくれる。遊び歩いていたとは言えず、不注意の一本で通す。職場のロシア人が次々証人として呼ばれる。殴った奴も証人だ。態度が大きい、ロシア人に威張って命令し使っているのを見たと言う者もいた。ああ本当に帰れなくなったと思った。女監督が発言を求め、ボイラー故障の時、クツズーミが工場の操業を早くさせた功労者だと証言し、あの時はここにいる誰よりも一番貢献したと言ってくれ、『同志』と呼ばれて釈放された。ノルマと死なない程度にしか食べさせない国だ、楽しみは噂話しだけ、地獄行きを逃れ又有名になる。女監督の名は、ヤーブシキナ・オーリャー。

●選挙。抑留中にソ連の総選挙があった。投票日を休日にして全員投票させる。立候補数は定員で共産党員だけ、アホかと言いたい。地区党員が机の前に座りその前で投票する仕組みと話す。棄権すると矯正労働25年とかで嘆いていた。選挙の翌朝、新聞屋が捕虜を集め、選挙は同志である共産党員が全員選ばれました。これは世界の労働者、農民の勝利です。捕虜は間髪を逃さずウラーと大歓声。遅れるものなら、アクチブ（転向者）に反動分子で吊るし上げられる。隙も油断もない。立候補締切りで全員当選が決まったのに、選挙までして世界に宣伝する、これがプロパカンダだ。アホの転向者はソ同盟万歳、スターリン大元帥万歳とリードして威張っている。いい加減に合わせると吊るし上げだ、真剣に大声で唱和する。大元帥は天皇一人でコリゴリだのに。

●有給休暇。転向者が捕虜を集め勉強会を始める、空腹で聞けるかと言うものなら一発で吊るし上げられる。今日はソ同盟労働者の有給休暇だ。一年に48日あり、危険労働は更にプラスされると、医者・看護婦・運転手も危険労働に入ると。有給休暇はロシア全土にある「休養の家」で家族と一緒に給料付で優雅なサービスを受けると。アホと言いたい、セーパー（鉄を直線に削る機械）工場の二人が結婚。結婚式日、女は休暇、男は休めず強行に休んだ。結婚式前に官憲が男を工場牢に入れてしまう。オーリャーが慰めに行こうと誘うので、工場牢の見学と同行する。裸足刑で震えていた。イワレンコフも二日酔で休み入れられている。話すと転向者に反逆罪にされるので沈黙を守るのみ。

●眠い（スパーチコーチス）おやすみなさい（スパコイノーチ）前述したが、私の働く旋盤の前には太い暖房用鉄管が通り、この上に板を置き腰掛けたり、寝転ぶことも出来る。捕虜は大の字に寝転び、ロシア人は両膝を抱えて寝る。日本人のように伸び伸びと足を伸ばして寝ろと言ったら、あれでは寝ている間に靴を盗られると言う。日本の諺に『寝首を掻く』と言うのがあるが、『首』より『靴』の方が平和と思う。

●私生児はスターリンの子と呼び育てられる。極悪人も『子は宝』にした。男は軍隊か難癖を付け囚人にしタダ働きさせる国だ。未亡人や兵士の妻が妊娠しても、本人も周囲もニンマリ笑って終わり。子供は集団で育て、優秀児は英才教育、雑魚は労働者、どちらも国の役に立つように育てる。女囚も妊娠する、相手の男は女の個人努力だ。ドイツ・ポーランド・イタリア・バルカン三国・日本人捕虜も標的らしい。女囚が妊娠すると「女」に昇格され別扱い。6人だか8人生むと、「祖国の母」と称号が与えられ勲章が貰える。スターリンは魔法使いだ、難癖を付け男を女から遠ざけ、女に子供を生ませて、「祖国の女」を「祖国の母」にしてしまう。体力3級の営繕が保育所から帰り、どう見ても日本人の子だと話すのがいる。お前の子かと言ったら真顔で否定し大笑い。ソ連だから働いているが、他の国なら入院の営繕だから。生きて帰れよ。

●機関車が爆発するぞ！。夏、ノルマをやり遂げ例により工場探検。直線2キロの試運転線路に一台止まっている。機関車の上から労働者が呼ぶので上がっていく、太いボルトを締めるのだが合うナットが無い。大きいナットを入れ、ボルトの頭をハンマーで叩きナットが締まっているように誤魔化すから、金鋏でナットを持てと言う。そんなことをすると蒸気の圧力で釜が爆発すると警告すると、スターリンはアホだから、部品も揃えず出庫させよと急がせる。2キロ（試運転線路）走れば合格と言い、お前はこの機関車の番号を覚えて、ダモイの時乗るな、爆発するからと、2人で膝を叩いて笑い合う。

●恐怖！ソ連体制。ダモイだ！。工場労働者が両側に並びドスブイダーニア（さようなら）と別れを惜しみ泣いてくれる人もいる。共産主義教育で言論・集会・結社・宗教の自由が認められ、労働者、農民の天国と教えられたが、国民は恐怖政治と密告に脅え、消された人も見てきた。収容所は半地下の穴倉監獄で本来の監獄に戻り、囚人が入り工場で働く。嫌だが仕方ないと諦めていた。日本の将校は貨車に乗る人員を決めると手を振って一足早く出発。駅に着くと誰もいず。福永達、将校が帰ってきたのは、それから2年後だった。

●恐怖！ソ連体制。貨車は東へ東へ。同じ貨車でも車輪の音まで違う。人と動物の違いは、人は生活すると「道具や物」が増えるが、本当に無一物の丸裸にされてしまった。それでも喜びの顔で輝いている。これと対象的な光景にイルクーツクで出会うとは。停車していると隣の線路に、女と子供と老人の客車が入ってきた。何処から来た？。ウクライナ。何処へ行く？。サハリン。何にしに行く？。ニズナーユ（知らない）。パチム？（どうして？）。朝、男達が工場へ出かけると、入れ違いに兵隊が来てダバイダバイ（急げ急げ）。男と連絡もさせず、今、ここに居る。サハリンはどんな処かと聞く、松村（漁師・八戸市）が、ウクライナより狭く、土地は痩せ、冬はザミヨロス（凍る）ので鳥も飛ばないと教える。もう慰める言葉もない。男が働きに出た留守家族を、国家権力で強制拉致した現場に捕虜が立ち会っているのだ。何が労働者、農民の天国だ。この現実を見せつけられても、転向組はソ同盟・スターリン大元帥陛下万歳と叫んでいる。船に乗ったら祖国ソ連へ帰れと、海へ流す作戦練る。

●ナホトカ。1・2・3とテントの収容所を繰り上がり、3は乗船待ちである。3へはなかなか進めない、港湾・建築・道路・貨車や船舶の荷作業などをする。ここを仕切るのは転向組で、最悪のロシア人スターリン以上の悪だ。機嫌を損ねると逆送させる権限があり、これを最大限に振舞って威張っている。小倉（神奈川県）は、橋詰何も言うな、お前一人の言動で全員が戻されると、私のそばから離れず、船に乗るまで私を監視していた。小倉がいたから帰れたかもしれない。

●祖国日本。上陸するや全裸にされ別棟の入浴場へフラチンで歩く。この間に少ない荷物全部調べられる。ソ連以上の厳しさに、これが祖国かと戦慄が走る。米軍二世の高圧的な取り調べ、日本へ帰ってきてはいけないのかとも思った。家に落ち着くとCIAの呼び出し、4キロメートル以上の行動は申告せよと厳命され、夜帰ると門前で背後から姿を見せない人物の尋問だ。逆らうと消される恐怖が背筋を走る。配達される郵便は葉書も封書は開封され、検閲済みとGHQのスタンプが文面一枚一枚に「お前を見張っている」とばかりに押してある。冷戦の渦中に巻き込まれているのだ。占領軍の威力は想像以上で、燃え

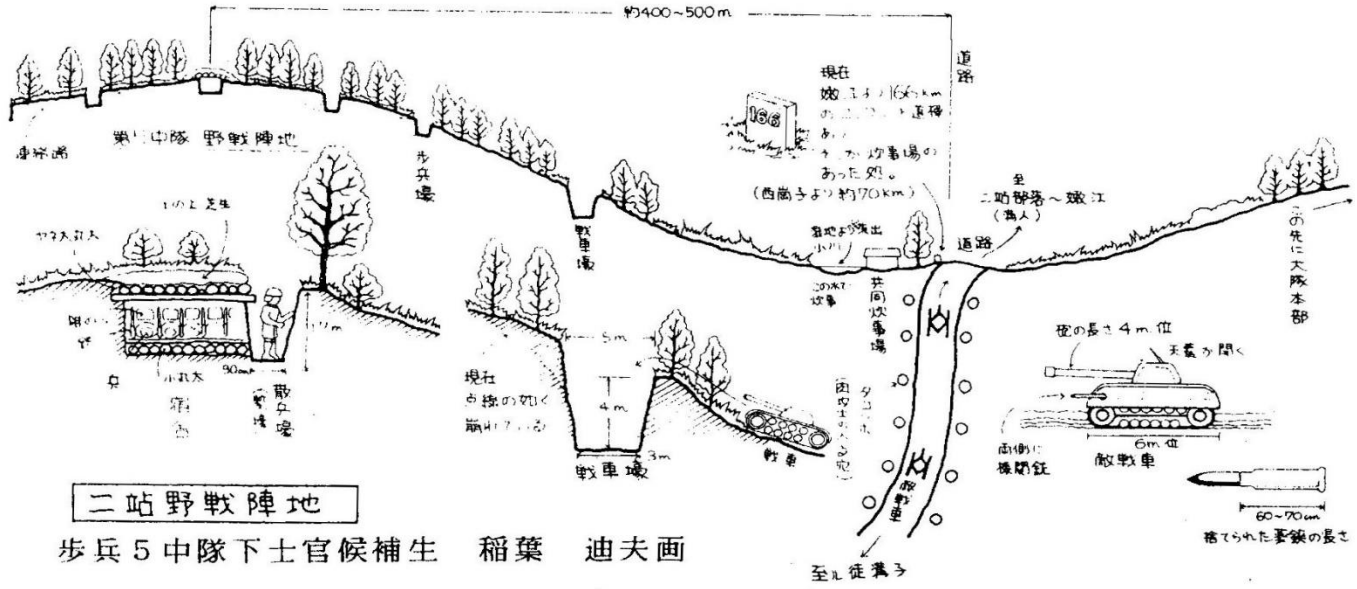
盛る火事でもマッカーサーの命令と言えば消えるとまで例えられた。俺は自由だ！解放されたと感じたのは、昭和２５年ＣＩＡで何度目かの取り調べの時。俺はカトリックだと言ったら、ネームデーを言えと言われ、１２月３日フランシスコ・ザビエルと即答してからだった。

虜　二　句

万物は凍てて二度目の冬も生く　四郎

罪々と九月囚われの雪舞い始む　四郎

関東軍第六国境守備隊　地上陣地図



歩兵５中隊下士官候補生　稲葉　迪夫画

歩兵５中隊　稲葉　迪夫

８月１９日、遂に５中隊にも対戦車肉迫特攻出撃が下命。私は籤で２１日と決る。弾薬箱の空箱に１０キロの爆薬を詰め、瞬発信管を取り付け、背負い紐で背中に固定。戦友に決別の挨拶をするが、誰にしているか、相手が誰なのか全然判らず混乱と自己判断する。

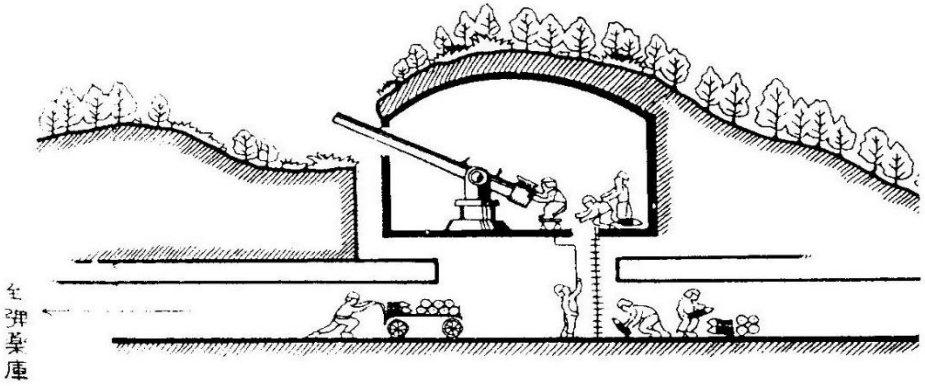
歩兵壕を飛び出る、下方直線の敵陣から白旗を大きく振り丸腰（武器を持たぬ）将校が我が陣地へ。敵に大損害を与えているので降伏の軍使だ、背後の日本陣地は勝ったと大騒ぎ「天皇陛下万歳」抱合い泣いている兵士も。軍使は「ミカドは１５日負けをラジオで全世界へ放送したと」私は生死を分つ体験をした。

工兵　兵長　長尾　堅造

建築業の私は工兵を拝命。黄葉工兵中佐の指揮で陣地要塞築城。私は８人の苦力（クーリ）を使い。賃金を払わず阿片でした。この苦力は山東省で畑で農作業中、兎狩りのように捕えられ拉致されたと言っていました。

一日の仕事が終ると二粒の阿片を渡すのです。喜びましたね。吸わぬ者は抗日インテリーで、脱走不可能厳重監視扱いでした。阿片の魔力は物凄く、阿片が切れると空っぽのモッコも持てないのに、阿片吸口のヤニをなめさすと忽ち元気百倍二個のモッコに山盛りの土砂を担ぐのです。阿片中毒にして働かせていたのです。

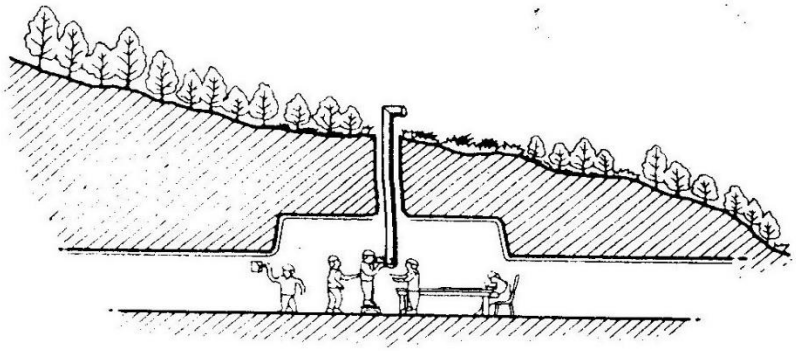
関東軍第六国境守備隊地下要塞陣地図
地下要塞は厚さ１㍍５０㌢の鉄筋コンクリート製



十榴砲塔

砲兵大隊長　清水　保画

舟山砲兵監視所（断面図）

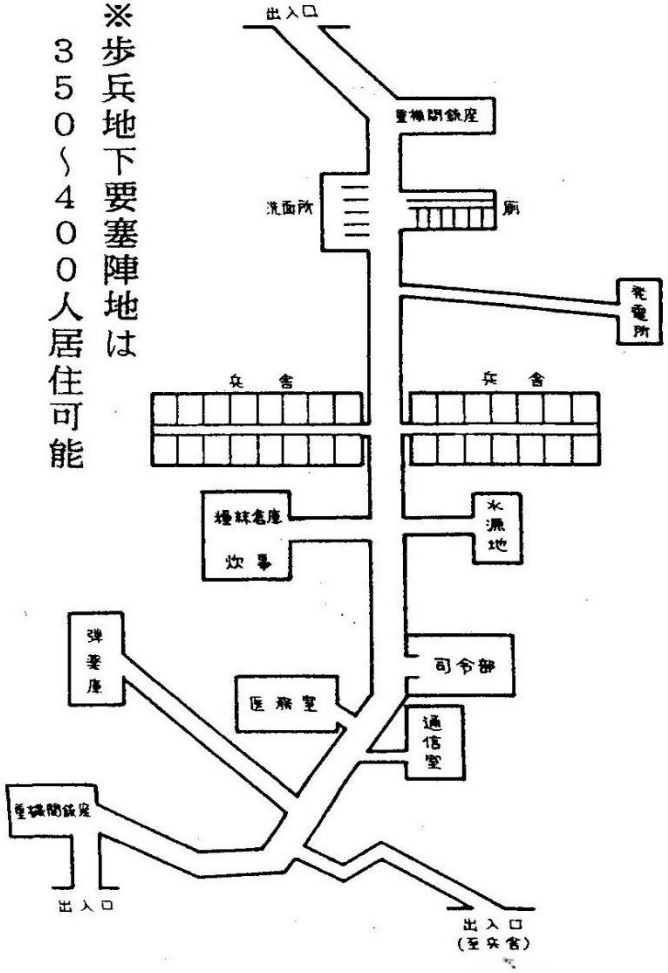


指令塔

人物像と比較し要塞がいかに巨大であったかと知っていただきたい。築城は労働者募集でなく、華北へ侵攻した日本軍が屈強な農民を拉致し、遠地の北満へ送り込み、軍事機密を理由に完成と共に殺害し湿地に埋めたと、その場所も先輩古兵から教えられた。　橋詰。

関東軍第六国境守備隊
歩兵９・１０中隊地下陣地

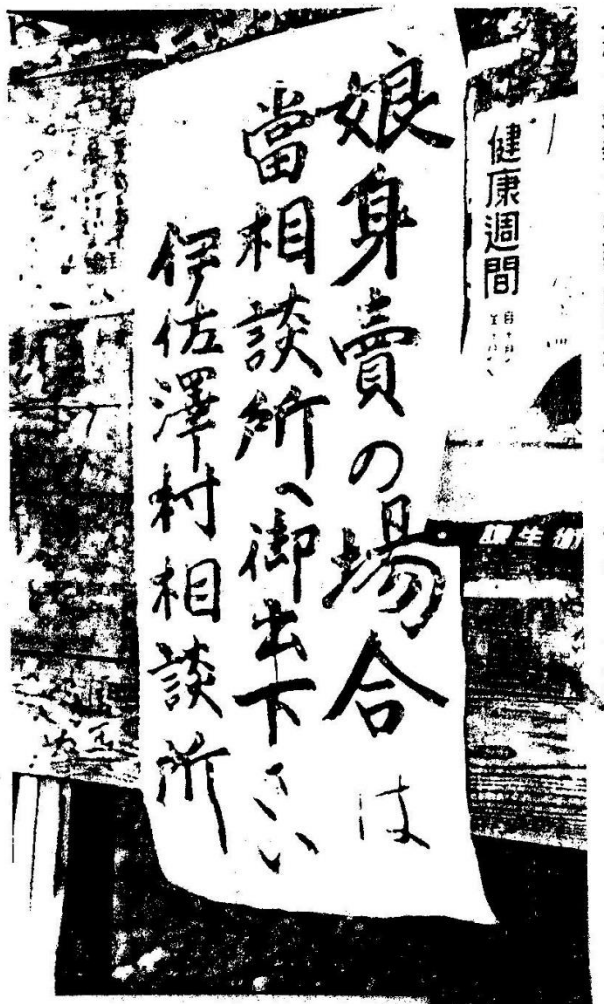
※歩兵地下要塞陣地は
３５０～４００人居住可能



★後記にかえて

◎憲法に男女平等条項を実現させた日本女性の恩人の一人に、昨年12月30日逝去した両親ユダヤ人のベアテ・シロタ・ゴドンさん享年89歳がいます。平成9年4月、私は彼女から直接その時の話を聞きました。彼女の起草した男女平等条項案を日本代表と検討する会議で、ボスは彼女を日本代表の後ろに立たせ通訳外の発言を禁じたと。始まる前、日本代表は突然立ち上がり、流暢な英語で『天皇を戴く封建社会の我国は男女平等の土壌は微塵もない』と大声で宣言。ベアテさん以外のアメリカ代表は驚きましたが、彼女は在日中に見聞しているので驚かす、これだから『案』の成立を一層願ったと話されました。

◎戦争に敗けるまで日本は【男尊女卑】女と嫡子以外の男子に人権はなく、男は兵役の義務で選挙権が認められ、女は選挙権もなく、人間の尊厳どころか人格人権も剥奪され商品同様『値』を付けられ売買されていました。



娘身売りの相談所の掲示板

◎右の写真は、女衒＝ぜげん（慰安婦楼に売る斡旋業者）は中間搾取するから『役場』を通しなさいの看板です。女衒を通すと「秘密裡」に、役所を通すと「知れ渡る」親の辛さ苦しみをこの看板からも知ることができます。

◎昭和20年8月9日、日ソ戦で第六国境守備隊は約300人前後保護した中に、朝鮮出身従軍慰安婦もいました。彼女達は自主的に負傷兵の看護と炊出しに甲斐甲斐しく働き、日本女性が手を出すと将校婦人が「朝鮮ピーと働くな穢れる」と言葉鋭く蔑視語を浴びせ威張っていました。彼女達は【大東亜戦争完遂！　撃ちてし止まぬ勝利の日まで！　来たれ若い力！】の公募で慰安婦にされたと言っていました。守備隊は対等に戦い、21日ソ連軍から日本の負けを知らされ、保護した民間人は一人も死なせず降伏しました。

◎昭和63年11月宝塚で対談した、比島→ジャワ→昭南島と転戦？した元従軍慰安婦は「私達は監視なしよ。朝鮮の人は昼も夜も鉄砲持った兵隊が監視するのよ。騙して連れてきたから逃げるのよ」と。また「逃げ遅れたオランダやイギリスの女は私と同じ将校用、比島や朝鮮女は兵隊用。白人女を犯しヨーロッパを征服したと威張っていた将校はB級かC級戦犯で絞首刑にされた」と。